

平成 27 年度

修士論文

近現代中国の大学キャンパスにおける中心的構成とその変遷に関する研究

指導教員

富岡 義人 教授

田端 千夏子 助教

三重大学大学院工学研究科

建築学専攻

XIE XIANGYI

謝 相益

有关近现代中国大学校园的中心的构成和演变的研究

A Study on the Central Compositions Appeared in Chinese University Campuses and
Their Chronological Transition 1860 - Present

XIE XIANGYI

2015.08

目次

第一章 序論

- 1.1 研究の目的
- 1.2 研究の背景
 - 1.2.1 大学に関する歴史と社会の背景
 - 1.2.2 中国大学形態の外国から影響
 - 1.2.3 既往研究の整理
- 1.3 研究の対象
- 1.4 研究の方法と構成
 - 1.4.1 研究の枠組み
 - 1.4.2 分析と調査の方法
 - 1.4.3 中心的構成を分析する方法
- 1.5 研究用語の定義

第二章 近現代中国大学キャンパスにおける中心的な構成

- 2.1 1860年-1911年 伝統大学キャンパス
 - 2.1.1 当時の大学の歴史と政治の背景
 - 2.1.2 当時の大学に関する法令
 - 2.1.3 当時の大学の文化背景
 - 2.1.4 当時の大学の教育制度
 - 2.1.5 当時の大学の社会価値的傾向
 - 2.1.6 伝統書院のキャンパスの一般的特徴
 - 2.1.7 対象作品の中心的構成の分析
 - 2.1.8 影響要因及び結論
- 2.2 1911年-1927年 民主革命期の大学：新学堂と教会大学
 - 2.2.1 当時の大学の歴史と政治の背景
 - 2.2.2 当時の大学に関する法令
 - 2.2.3 当時の大学の文化背景
 - 2.2.4 当時の大学の教育制度
 - 2.2.5 当時の大学の社会価値的傾向

- 2.2.6 新学堂と教会大学のキャンパスの一般的特徴
- 2.2.7 中心的構成の分析—新学堂の対象作品：北京大学
- 2.2.8 中心的構成の分析—教会大学の対象作品：華西協和大学
- 2.2.9 影響要因及び結論
- 2.3 1927年-1949年 中華民国の大学キャンパス
 - 2.3.1 当時の大学の歴史と政治の背景
 - 2.3.2 当時の大学に関する法令
 - 2.3.3 当時の大学の文化背景
 - 2.3.4 当時の大学の教育制度
 - 2.3.5 当時の大学の社会価値的傾向
 - 2.3.6 中華民国の大学キャンパスの一般的特徴
 - 2.3.7 対象作品の中心的構成の分析
 - 2.3.8 影響要因及び結論
- 2.4 1949年-1966年 中華人民共和国成立初期の大学キャンパス
 - 2.4.1 当時の大学の歴史と政治の背景
 - 2.4.2 当時の大学に関する法令
 - 2.4.3 当時の大学の文化背景
 - 2.4.4 当時の大学の教育制度
 - 2.4.5 当時の大学の社会価値的傾向
 - 2.4.6 当時の大学キャンパスの一般的特徴
 - 2.4.7 対象作品の中心的構成の分析
 - 2.4.8 影響要因及び結論
- 2.5 1966年-1978年 文化大革命期の大学キャンパス
 - 2.5.1 当時の大学の歴史と政治の背景
 - 2.5.2 当時の大学に関する法令
 - 2.5.3 当時の大学の文化背景
 - 2.5.4 当時の大学の教育制度
 - 2.5.5 当時の大学の社会価値的傾向
 - 2.5.6 当時の大学キャンパスの一般的特徴

- 2.5.7 対象作品の中心的構成の分析
- 2.5.8 影響要因及び結論
- 2.6 1978年-現在 改革開放期の大学
 - 2.6.1 当時の大学の歴史と政治の背景
 - 2.6.2 当時の大学に関するの法令
 - 2.6.3 当時の大学の文化背景
 - 2.6.4 当時の大学の教育制度
 - 2.6.5 当時の大学の社会価値的傾向
 - 2.6.6 当時の大学キャンパスの一般的特徴
 - 2.6.7 中心的構成分析：建築、中庭、キャンパスの形態枠
 - 2.6.8 対象作品の中心的構成の分析
 - 2.6.9 影響要因及び結論
 - 2.6.10 現在新キャンパスの中心的構成に影響する要素と特徴
- 2.7 近現代中国の大学における中心的構成の時間的変遷について6事例を題材として分析
 - 2.7.1 方法
 - 2.7.2 討論
 - 2.7.3 結論
 - 2.7.4 図表

第三章 大学の現地調査と院長に対するインタビュー取材

- 3.1 四川工商学院の眉山キャンパス
 - 3.1.1 キャンパスの背景と配置図の調査
 - 3.1.2 院長に対するインタビュー取材
- 3.2 長安大学の渭水キャンパス
 - 3.2.1 キャンパスの背景と配置図の調査
 - 3.2.2 院長に対するインタビュー取材

第四章 総括

- 4.1 形態分析について
- 4.2 インタビューについて

参考文献・謝辞

第一章 序論

1.1 研究の目的

目的の宣言：

- 中国大学の中心的構成の多様性及びその変遷を当時の社会状況を背景にして整理する。
- キャンパス計画の指針をつくる上での経験的資料とする。
- 中国における大学の捉えられ方、配置計画や建築デザイン表現された、大学の社会的位置付けの変化を読み取る資料。

本研究はこいたことを行うので、目的は次の3つ：

(1) 歴史的な事実の整理

中国の近代的な大学制度は1860年の洋務運動から始まるとされる。そのきっかけは外国との戦争（1840-1842年アヘン戦争、1856-1860年第二次アヘン戦争）で、封建主義王国の鎖国政策が崩壊して、半植民地半封建社会へと変わった。1911年、中華民国が建国され、資本主義社会制度が確立された。1949年には中華人民共和国の建国により社会主義制度が成立した。そして、1966年から十年間の文化大革命で大学制度が荒廃したが、1978年改革開放後には、大学は、快速的に回復し、発展していた。

(2) 将来の計画指針

現在、中国では、経済が急ピッチで発展し、政治的にも開放的な気運が高まりつつある。大学の新キャンパスも続々と建設中であり、古いキャンパスの改造や更新が行われ、キャンパスはますます巨大化している。そして、これらはキャンパスの計画と関係している。キャンパス計画の指針をつくる上での経験的資料であり、現在と未来のキャンパス形態の発展の参考として、本論文の成果を提供したい。

(3) 大学の有り方、捉えられ方

近現代大学キャンパスの建築形態の変遷、特にその中心的な構成の変遷を観察することによって、その各時代ごとの社会状況に建築形態がどのように対応したのか、どのような形態的多様性を生んだのかを明らかにすることである。建築形態における中心的構成は、社会的な権威や価値、学術の集団的営為の意義を表現する媒体となりやすい。ゆえに近現代の中国社会の大学に対する捉え方の変遷と振幅を知るのに適した観察点である。

1.2 研究の背景

1.2.1 大学に関する歴史と政治の背景

1) 中国における大学数の変化

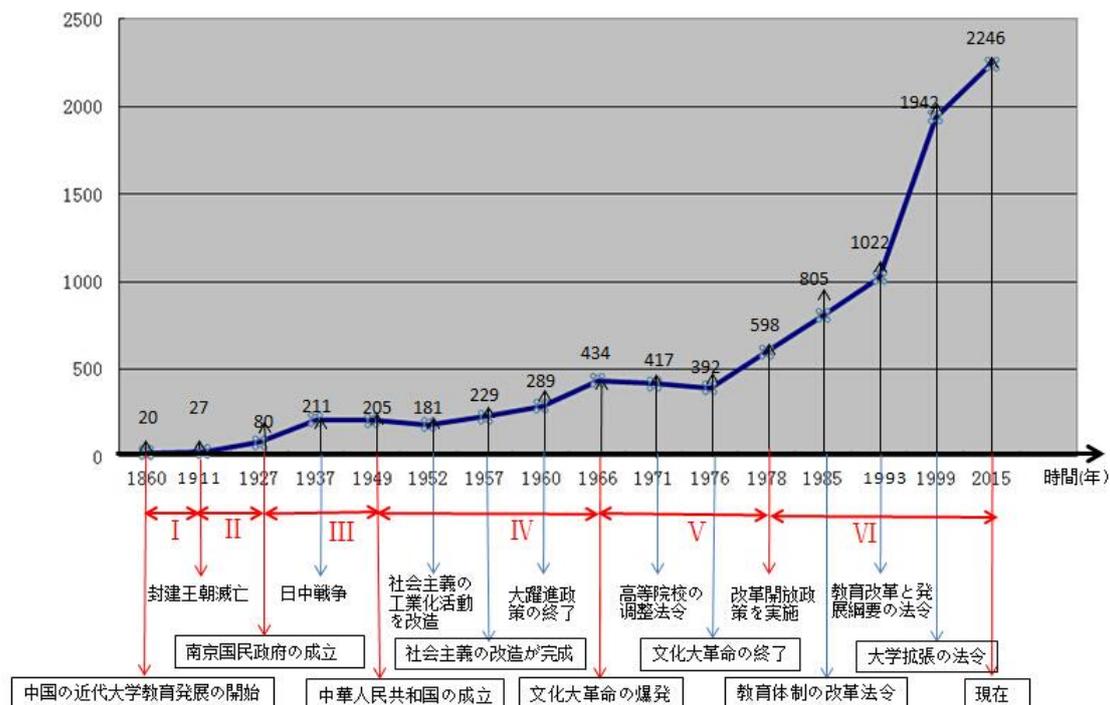


図 1-1 中国近現代の大学数の変化

中国の高等教育は伝統的に科挙制度に基づいた、1905年に廃れて来ましたが、近代的な大学制度が始まったのは、おおむね1860年の洋務運動以降のことです。これ以降、近代中国は政治、社会、経済、文化上のめまぐるしい変転を経験して来ましたが、

図は中国における大学の数をグラフにして示したものである。図 1.1 の下には中国の歴史的な転換点を記し、時代を I から VI の六つに区分して示している。1860-1911 年清朝末期の統治時期は大学の増加速度は相対的に遅い時期である。I 1937-1945 年は日中戦争、その後 1949 年までは、国共内戦により、長期間戦争の影響を受けたため、大学数は停滞し、更に減少する時期もあった。1966-1976 年文化大革命の影響を受けた。1976 年の文化大革命の終了を境に、大学数が大幅に増加していることが分かる。

このような変転の中で、中国の大学キャンパスは具体的にどのようなデザインをされてきたのか、これが本研究の最も根本的な関心である。

2) 中国の大学発展と政治の関係

中国においては、政治の面で、大学は政府の制御から離脱しておらず、独立した研究機構になっていない。キャンパスの建設土地は所在地省政府に依頼され、大学の役人は政府部門者の身分肩書きが加わっている。更に、経済的に政府の補助金を依頼、現代中国の大学と政府の間には、緊密な関係がある。

1.2.2 中国大学形態の外国から影響

中国の近現代高等教育と大学の誕生、発展は政治的、社会的、経済的、海外的などの外部環境要素の影響で形成。歴史時期の違いによって、キャンパス形態が受ける影響の来源も違う。これは日本やアメリカなどのヨーロッパ国家の発展と違う、彼らの大学形態は大学キャンパス自身の教育体制、管理モードと大学精神文化などから延伸してきた。

表 1-1 各時期にキャンパス形態が受けた影響

時期分類	受けた影響
1860年-1911年 伝統書院	中国伝統建築 四合院の形式
1911年-1927年 民主革命期の大学	新学堂：日本の建築形式 教会大学：アメリカのキリスト教大学建築の形式
1927年-1949年 中華民国の大学	中国伝統宮殿式の建築形式
1949年-1966年 中華人民共和国成立初期の大学	ソ連の大学建築形式
1978-現在 改革開放後	アメリカとヨーロッパなど多様な大学建築の形式

1.2.3 既往研究の整理

A 张涛 《当代大学キャンパス中心区の空間環境デザイン研究 Research of the space environment in the center zone of university in contemporary era》、合肥工業大学、2005年4月

視点：当代大学キャンパスの中心区空間の概念とデザインを分析、それに、中心区空間環境デザインの発展の勢いを予測した。

B 王宇，《群構——キャンパス中心空間設計の策略研究》、同濟大学、2007年3月

視点：中心区の空間形態と特徴、群構の方法でキャンパスの中心区空間を設計する。

C 于洋、《隠された中心空間を探し Try to Find the Disappearing Center Space》、鄭州大学
2012年5月

視点：建築の中心空間の発展と変化を研究、客観的にグラフ理論の方法で建築の中心と空間やその他の空間の関係を定義する。

D 冯刚、《中国当代におけるキャンパスの計画と設計分析——大学キャンパス企画に討論グループ》、天津大学、2005年6月

視点：当代大学形態における発展過程の中で特徴と出た問題を分析した、未来大学キャンパス計画の発展の勢いなどを討論した。

E 陳曉恬、《中国の大学におけるキャンパスの形態変化》、同濟大学、2007年

視点：近現代中国における大学のキャンパスの形態の発展と変化を分析及びキャンパス形態と社会の価値志向の関係。

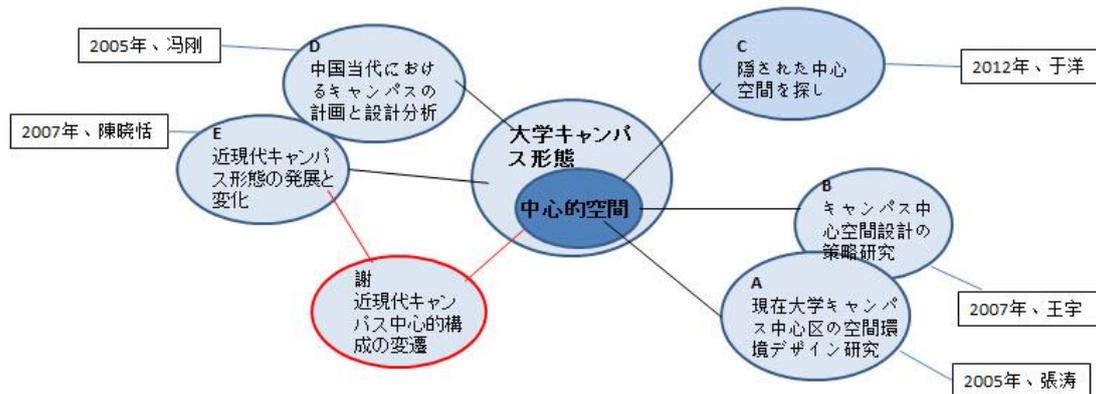


図 1.2 既往研究の整理

今まで、中国の大学キャンパスに関する研究は中国人論者してよるものにはほぼ限られている。それぞれのテーマの関連を示した喪のがスライドの図である。このうち、本研究に最も近いのが2007年の陳曉恬によるキャンパス形態の発展と変化の研究であるが、中心的構成の変遷の点で本研究とは異なっている。

大学キャンパスの中心的構成を研究する理由

キャンパスの「中心的構成」は、その大学がよりどころにする権威のありか、その社会的価値、学問コミュニティの協力と統合のありかた、学問の自由の捉え方など、大学の政治的社会的意味をよく表す大切なポイントであるため、中心的構成を研究する。

1.3 研究対象

研究の対象は各時期段階にキャンパス形態特徴の中で有名な都市で典型的な10個の例として選んだ。図面と写真が文献から選定し、現地調査の可能性ができる。

表 1-2 研究対象の作品の地理分布

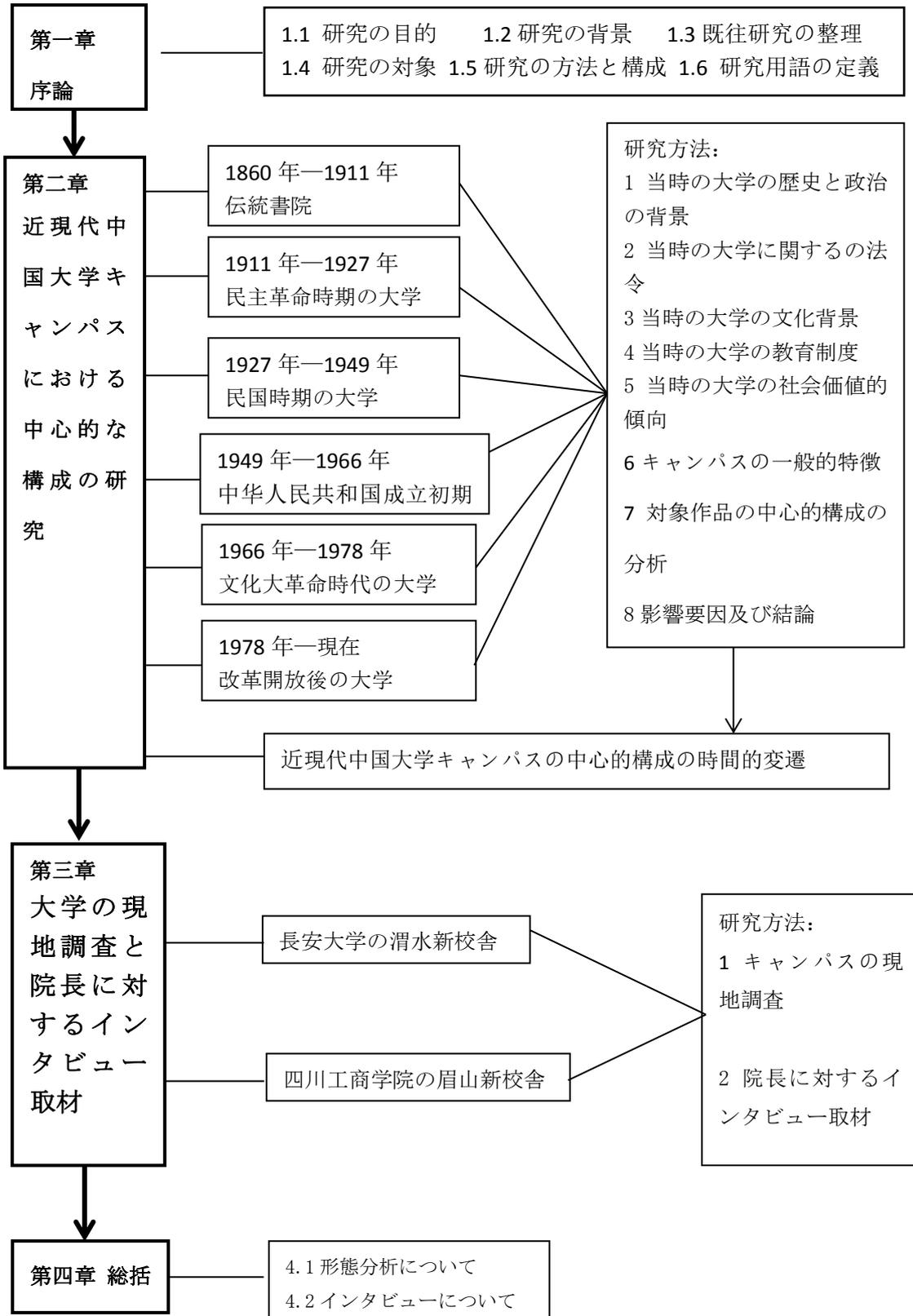
時期分類		対象作品の名称	
I	1880年—1911年 伝統書院	1 岳麓書院	
II	1911年—1927年 民主革命期の大学	2 新学堂：北京大学	
		3 教会大学：華西協和大学	
III	1927年—1949年 中華民国の大学	4 四川大学	
IV	1949年—1986年 中華人民共和国成立 初期の大学	5 西安交通大学	
V	1986年—1978年 文化大革命期の大学	6 清華大学	
VI	1978年—現在 改革開放期の大学	7 長安大学 渭水キャンパス	
		8 西北工業大学	
		9 東南大学九龍湖キャンパス	
		10 四川工商学院 眉山キャンパス	

表 1.3 は近現代分析の対象とした6期、計10大学の時代及び地理的の分布を示している。これらの実例は、それぞれの時期の特徴をよく示すものを選択したもので、各時期の造形の多様性を逃さないよう、II期は二校、VI期は4校を選んでいる。

なお、これらの実例は本研究を進めるために必要な図面や文献資料が十分あった。

1.4 研究の方法と構成

1.4.1 研究の枠組み



1.4.2 研究の方法

本研究の方法は、形態分析とインタビューの2つから成る。

第一の形態分析は、中国の近現代史の重要画期により6段階の時期、すなわち、伝統的学堂の定型による時期、諸外国からの覇権的影響と宗教学校の移入の時期、民国政府下での新大学制度の創設期、社会主義制度下での新中国の思想的影響期、大学制度が荒廃した文革期、改革開放期後の復興期に分けた。その上で、これら各時期段階の典型的キャンパスを選択し、そこに含まれる中心的構成を（建築、中庭、キャンパス形態枠などにより）抽出するとともに、その変遷、及びその影響要因を分析した。最後、各時期段階で最も典型的な例を選び、図表を作成し、図形と文字の分析を行う、中心的構成の違いと社会変革の発生とともに変化した所を比較し、中心性の形成に関わる原因や影響を見つけ出す。

第二のインタビューは、これらの事例のうち2つの大学の現地調査を行うとともに、当該大学の院長（学長）にキャンパス形態の中心的構成に関する考えなどについて聴取し、上記の形態分析の妥当性を検証した。

1.4.3 中心的構成を分析する方法

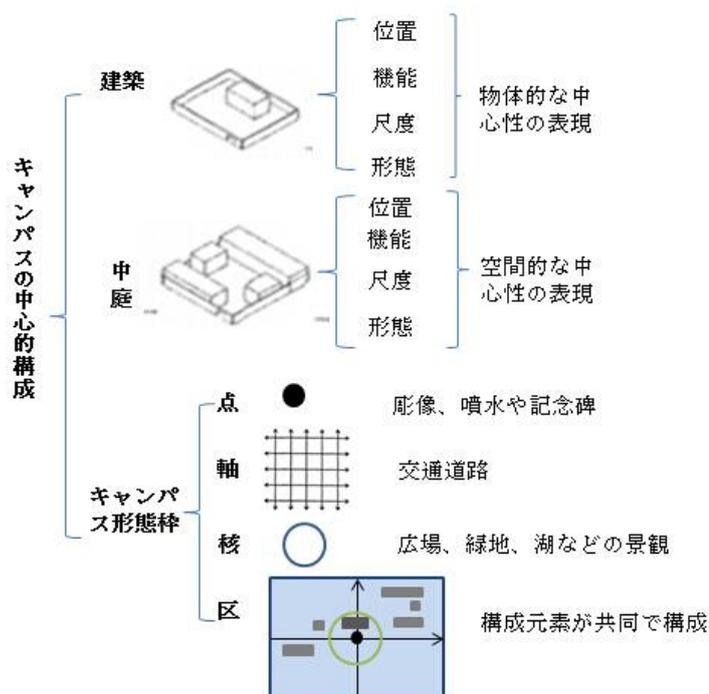


図 1-3 中心的構成の三段階

中心的構成を分析するために、建築、中庭、キャンパス形態枠について抽出し、図 1.3 に示す内容について分析し、整理する。

1.5 研究用語の定義

1.5.1 大学キャンパス

大学キャンパス (Campus) : 建築機構の建築群及び所属する区域とキャンパス環境を示す。知識、生産知識と応用知識を学習する場所である。

キャンパス形態 : 各種社会活動 (政治、経済、社会と企画過程などが含まれ) の作用を受けた大学物質環境の変化、主の研究対象としてはキャンパス空間構造、平面形式、構成要素、キャンパス建築スタイル及び社会活動との関係である。

1.5.2 キャンパスの中心性の定義 (建築学の角度から)

ルイス・カーンが学校に対する説明 : 学校の起源では語る者と木の下で集まった人たちとの平等交流行為である。木下は人たちの集まり的な空間になって、中央の語る者は中心としている。それでキャンパスの中心性が生まれた。

本研究の定義 : 限られた限界の範囲の中で中央に位置し、中央或は主導的な位置を持ち、特殊な体積と形態を有する (幾何形体又は軸対称形態)、重要な活動の開催で人々の集散、周囲の建築や建築群又は交通路線を主導する位置がある、ある象徴的な意義や注目されやすい物を有する。キャンパス中の建築や構築物や交通道路など、以上の特性を持ちとき、中心性を有すると言う。

1.5.3 大学キャンパスの中心的構成

大学のキャンパスは学習、生活と交流などの活動の総合性区域である、小さい都市と言ってもよい。このため計画と設計にも類似した点が生ずる。その巨大な大きさと複雑な機能性で、いくつかの中心でキャンパスの内部空間を導入することによってひとつのまとまった全体的空間になる。

中心的構成は中心性を有するのキャンパス空間の各構成要素の分布の組み合わせで構成され。構成要素としては中心性を有する単体建築とか、中心性を有するいくつかの建築でかこまれて構成された中庭、又は中心性を有する彫像、中心性を有する交通システムで構成、或いはこれら以上を共同で構成する。

大学キャンパスの中心的構成は小体積から大体積で大きく三つのレベルを分け、建築、中庭、キャンパス形態枠である。

(1) 単体建築

一般的に建築の機能、位置、体積と形式この四つの面から中心性を表現する。

機能：その他の建築に対して主導の作用を持つような。大学キャンパスの価値傾向を代表するような重要機能を有していればピックアップする。

位置：キャンパス中心位置とか中軸線上、又は主要な道路上など。

体積：体積が大きいことには強調性がある、キャンパスの表徴的な建物や、都市の表徴性を表す建物など

形式：建築に用いられる、形態的特徴、例えば三段式構図と対称形式の採用など。

キャンパスの単体建築は以上の特徴を持つ時に中心性があると認定する。中心性建築とも言う。

(注：キャンパスの面積が大きく、建築が多いということだけでは、形式上に中心性を表すの建物はキャンパスの中心性建築にはならない。)

(2) 中庭

中庭はいくつかの建築群を囲むことで形成された空間である。「囲む合」は元々中庭の形態をさす意味である。一般的に機能、位置、体積と形式で中心性を表現する。

位置：キャンパスの中心位置、中軸線上、又は主要道路上。

機能：重要な建築の組み合わせ、人々の最大の集散地である。

尺度：キャンパスの他の中庭より規模が大きい。

形態：円形、方形、三角形の囲む合いのモードで求心性がある。規則的、対称的である。伝統の四合院形式は中庭の中心性を持つ代表的な例である。

(注：建築と中庭は同様で、キャンパス中的一部分であるので、形式上の表現だけであれば、キャンパスの中心の構成要素にならない。)

(3) キャンパス形態枠の空間図式とその要素

空間図式とは、キャンパス空間構成の枠と基本制御システムのことで、キャンパス形態を時間とともにその可能な成長と発展の方向を制御する、キャンパス全体の段階においてキャンパスの組み合わせ関係を反映しており、キャンパス発展の客観的な規律が分かる。大学キャンパス形態の構成要素が多いと複雑化し、都市の形態と類似している。このため、本論では都市形態に関する研究を参照し、小体積から大体積までの順序で四種類の要素に分け、それぞれ、点、軸、核、区で社会段階の違いによって、中国の大学キャンパス形態の特徴を分析する。これをキャンパスの空間図式及びその要素にする基本制御システムととらえる。

点：(中心) 点は、広大な環境中において特殊な外形、或は象徴的な意味や記念意味を持った、注目されやすい物的、彫像などによって表現される。その周囲に人々の集散することできやすく、キャンパスを代表する空間となる。キャンパス環境の理解と形象的記憶を増強させ、人々の感覚と感情を深める。表現方式は彫像、噴水や記念碑などが多い。

軸：由来は古代の宮殿建築群式の巡礼路で、等級制と儀礼性を象徴する。中心軸はキャンパス形態の序列を反映している、キャンパス内部構造の秩序を主導し、また、キャンパスの伸びる方向を決定づけ、軸がほとんどの場合は南北方向に設定されている。中心軸が有する特性：

礼制性：儒学思想に由来する、軸線上に大小違った建築空間を配することによって、等級と対比を発生させる。

形式性：校門の入り口から、巨大な建物を突然見せて視覚や精神面の衝撃を演出する。

対称性：軸線の両側の道に沿って、建築群を対称配置しそれによって軸線の中心性を補強する。

機能性：キャンパスの中で重要な機能の建築を順次並べて軸線を形成する。

交通性：キャンパスの内外と接続する主要交通路が正門を通る通常の形式。

景観軸：広場、水、緑、回廊などの要素を構成によって生ずる軸線による景観演出する。

中心軸は単一の場合も、又はいつくか組みになた持つのもある、これによって中心性を強く表現することがある。

核：(中心) 核は人々の行為の活動の発散や集まりなど場である。他の下位の核空間を統合する役割を持っている。中国各歴史段階において、キャンパス形態の表現である。中心性は制御性と礼儀性を持っている、キャンパスの重要位置で、全体の形態と雰囲気には及ぼす影響は大きい。表現方式は主に広場、緑地、湖である。

区：(中心) 区は、様々な形態の構成要素を総合して形成される大面積の領域空間である。建築物、建築物群、構築物、交通システムと景観緑化などが共同することによって形成される。この空間区域はキャンパス構造の中心地区に置かれることが多く、キャンパス機能の重要な構成部分となり、またキャンパスの公共の建物や各種サービス施設の集中地、教育、研究、学術の交流などの主要なイベント施設やサービスの空間となる。空間特性の点ではほかのキャンパス地区とは区別される。全体のキャンパスは文化と個性形態が最大限に表現される。

第二章 近現代中国大学キャンパスにおける中心的な構成

2.1 1860年-1911年 伝統大学キャンパス

2.1.1 歴史と政治

1840年鎖国していた封建主義王朝は、西洋国家の侵入にともなって半封建半植民地状態に陥った。近代的な大学制度が始まったのは、おおむね1860年の洋務運動以降のことである。1911年に封建王朝滅亡する前、書院*1は封建王朝の大学形式の代表である。

*1 書院：書院は古代中国特有の一種類の教育機関や学術研究所である。

その特徴は：個別の有名な学者の指導の下で、大量の書籍を蓄積し、生徒を集まって授け、教育と研究を組み合わせる。1000余年の歴史がある、中国の封建社会の教育、巨大な影響を与えた。

2.1.2 法令

1905年、清朝は封建科挙の試験制度を廃止する主旨の、『钦定合奏定学堂章程』*2を發布した。これにより伝統キャンパスに対する改革と発展の気運が芽生えて来た。

2.1.3 文化

数千年の儒家思想*3、道家思想、中国的の建築哲学——風水学。

*2：『钦定合奏定学堂章程』：“至于立学宗旨，无论何等学堂，均以忠孝为本，以中国经史之学为基，俾学生心术一归于纯正，而后以西学澹其知识，练其艺能，务期他日成材，各适实用，以仰副国家造就通才慎防流弊之意。”
西洋の教育体制が提唱して導入し、また伝統文化の精神を保存に願う。出典：陳平原『私の目から北大の百年改革を見る』

2.1.4 教育

唐朝末期から続いた、封建科挙制度によって、人材を選ぶ制度があった。授業内容としては四書五経、哲学、歴史などの文科課程しかなかった。

2.1.5 キャンパスの社会価値傾向（学校が人材育成と社会の関係）

古代から始まり、大学教育と政治的統治が密接に関係していた。政府は人材を選び、封建王権の統制を固めた。

“忠君尊孔”：君主に忠誠、孔子に尊重、伝統文化を重視する。

“学而优则仕”：意味は、学習に努力し、優秀な人材を選び、政府機構に配属して国家を管理する。

注*3：儒学思想と道家思想と風水学は中国伝統書院に対する影響：

①儒家思想：孔子が春秋戦国時代に提唱した思想であり儀礼規則である。主な内容は“礼，义，廉，孝，耻，忠，仁，弟”である。自然の崇拜から、血縁関係と等級*4の区分に発展していった。

この中でも“礼”*5——尊敬と等級を核心内容としている。

“礼”は礼儀と等級、秩序と調和の意味である。礼の思想は根が深い、厳格的な等級は生活のいろんな面に表現している、封建も同様で、古代の都市、皇居及び一般住民の建物などなど、等級秩序と向心性が表現している。建築に対し、礼の制度は中心性を有している。

②道家思想の中の“天人合一”，“中庸之道”も建築に重要な影響を与えている。

a. 天人合一：人と自然が協和の意味をする。

建築に対する影響：敏捷な造園手法を用い、建築を自然に融解する、自然景観を借りて建築の等級の面を弱める。

b. 中庸之道：不極端で、和を求める思想。

建築に対する影響：つり合いのバランスと“集中性”中国の伝統文化で厳密の制度を形成され、マナーや行為の規則と生活方式の形成で、その上で厳格的な社会等級秩序を建てられ、一番直観的に表現しているのは建物である、書院の建造にも影響されていた。

③中国の建築哲学：風水学*6

建築の風水学と生理学、生態環境学を結び付けて、建設の地形、向き、配置が規定され、後ろを山に向き、前は水に向き（面を背に直面して、山、水）、配置としては北に置き、向きは南に、四象五行によって*5 閉鎖の環境を形成する。対称式のレイアウトを強調し、鮮明の中軸対称、等級を強化する、中道調和礼儀を含んで、バランスを通じて、秩序空間の段階を作成する、グループの勢いを作り出す。

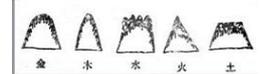
*4 “居中為尊，長幼有序，尊卑有列”：人と人の社会関係において等級分けを表現している。建築に運用し、中央の位置は尊いとされ、中心性を強調している。

*5 “礼者，天地之序也；和，故百物皆化；序，故群物皆别”：

礼というのは、自然界にあまねく存在する秩序であり、これによって調和がもたらされ、万物の成長が育まれる。秩序があるからこそ、万物の価値に応分の差が生ずる。
出典：孔子，《礼记》

*6 風水学

五行：



四象：

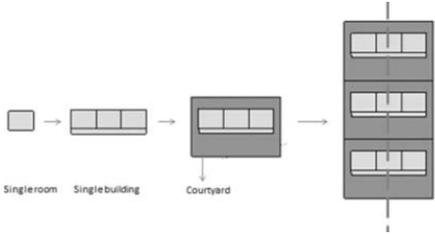
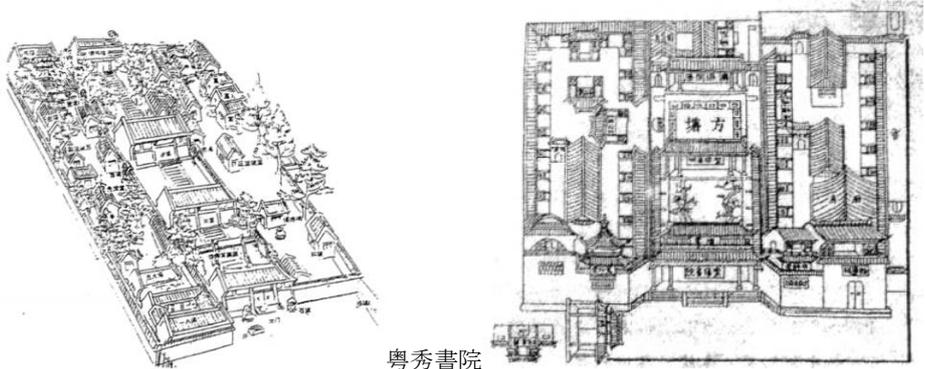
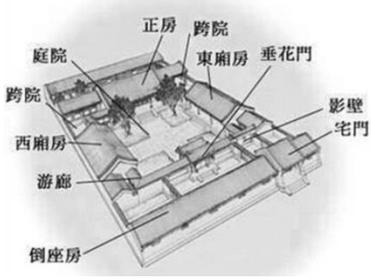


左青龙，右白虎，
上玄武，下朱雀

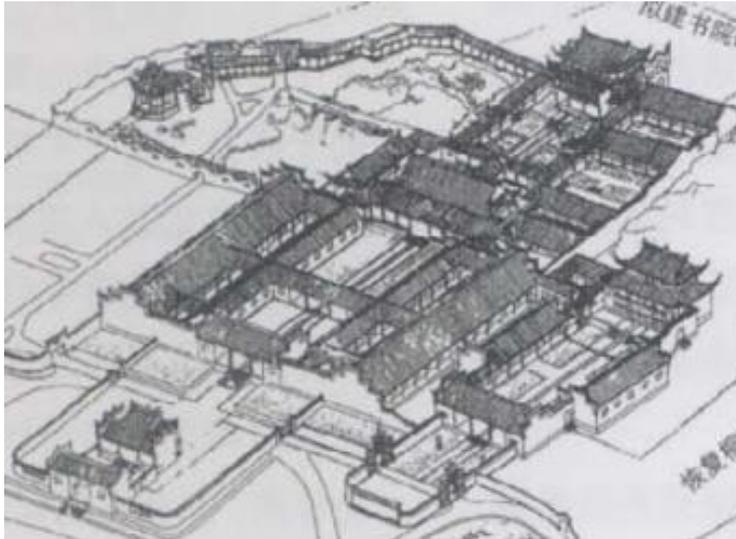


風水图

2.1.2 当時の伝統大学キャンパスの特徴：

機能	授業、又は学習討論のための講堂、祭祀活動の場、書籍の蔵書建物、また教師および学生の宿舎、食堂、倉庫、などの建物から成る。
敷地	自然の地勢条件に基づいて建ち、風景優雅な山林から都市に引越している。
建築	<p>伝統的木骨造建築形式で、“間”を単位とする、ほとんどが平屋とする。</p>   <p>岳麓書院</p> <p>出典：何礼平、『中国古代庭園書院の文化意義』、中国庭園、2004年08月</p>
キャンパスの形態	<ul style="list-style-type: none"> ● 単体の建物を基本として、一つの建物と前庭が一組になり、幾つか繰り返されて建築群ができています。 ● 中軸線を介して閉鎖的な四合院空間の組成モデル、対称とバランスの分布方式を採用、伝統書院形態は“礼”制規範を建築群の核心として建造する中庭の大小の違いによって豊富な空間感が感じられる。 ● 道路と交通システムを明確化していない。
伝統の書院の例	 <p>粤秀書院 紫陽書院</p> <p>出典：陳曉恬、『中国の大学におけるキャンパスの形態変化』、同濟大学、2007年</p>
伝統建築形態の影響	 <p>正房 跨院 東廂房 垂花門 影壁 宅門 西廂房 游廊 側座房</p> <p>傳統民居四合院 多個四合院</p> <p>出典：劉煥頤，修士論文『中国山西省の明代太原県城における四合院住宅の空間形態分析』、2010年</p>
伝統の四合院の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) 儒家思想で特に強調される。卑一貴の社会関係は家庭の成員の序列意識して、影響して、住宅建築の配置に直接的に表現された。 2) 平面計画を見ると外部に対する閉鎖性と内部に対する開放的。 3) 周辺を整列的に沿う建築する、南北対称的方形住宅を合成し、囲んだ形式である。 4) 住宅の沿った南北に向かって順次直列的に整列して、住宅群を形成する。

2.1.3 対象作品の中心的構成分析：岳麓書院



出典：魏春雨・許昊皓・卢健松、『異質同構-岳麓書院から湖南大学まで』、
建築学報、2012-02-10

時間	963-1903 年
位置	湖南
面積	21000 m ²



孔子廟

出典：LIU Feng, HU Xi Jun,
Chen Cun You、

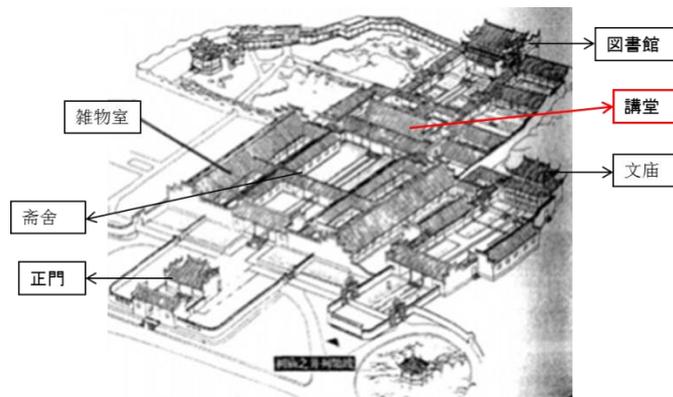
『Art Form Connotation of the Academy Garden: A Case Study of Yue Lu Academy』、
PLANNING AND DESIGN、2014.



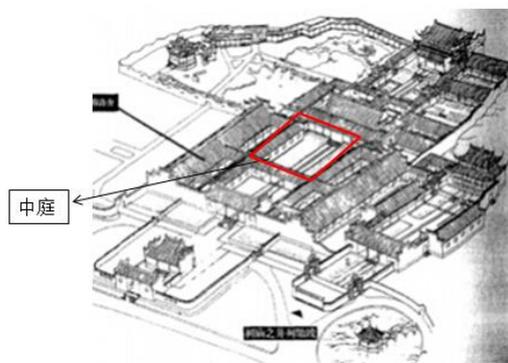
藏書樓（図書館）

出典：何礼平、『中国古代庭園書院の文化意义』、「中国庭園」、
2004 年 08

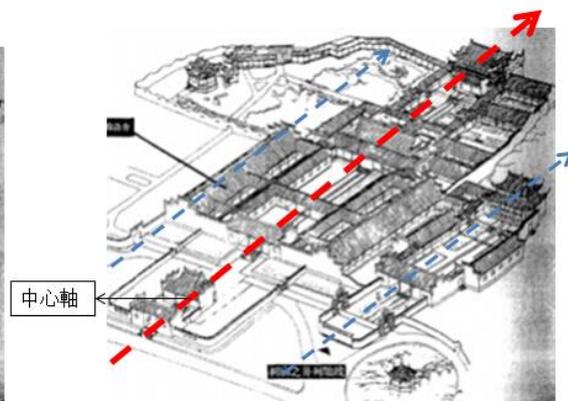
分析図



分析図 a: 主要建築



分析図 b: 中庭



分析図 c: 中心軸

中心的構成の分析		形態分析
建築	機能	主に講堂を建築し、齋舎と蔵書館は順次に主軸ライン沿いに配列する。講堂は書院の核心部分として、講義、集会、重要な礼儀活動した中心地点である。(図 2-1)
	位置	講堂はキャンパスの主軸ラインに位置する。蔵書館は書院中央軸線の端末の地勢最高の場所に位置し、“山”字形の礼制性分布を形成する。(図 2-2)
	体積	主軸線上の建築体積が大きい、講堂は最大五つの部屋から構成する。
	形態	閉鎖した伝統建築スタイル、三段式対称の構図で、建築用の山型の屋根、地位を強調する。(図 2-4)
中庭	機能	重要な礼儀と活動する中心地である。
	位置	キャンパスの中心軸にある。
	体積	主軸線上の中庭が大きいので、キャンパス中では目立つ。
	形態	閉鎖の矩形四合院形態、中軸対称的に規制分布の方式、中心向き、建築の前は独立尾庭があり、中心軸に沿い繋ぎで配列し、礼制の空間を形成する。
形態 枠	点	
	軸	対称軸線と礼制軸線及び機能軸線が重なることで中心軸線になる。中心軸線を主とすることと幾つもの副軸線を南北方向に沿い並べる。
	核	
	区	
中心性の表現：：建築、中庭、中心軸		

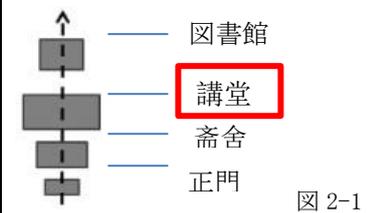


図 2-1

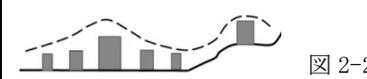


図 2-2

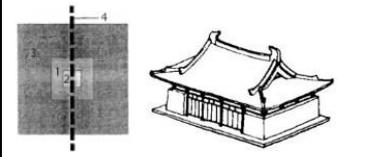
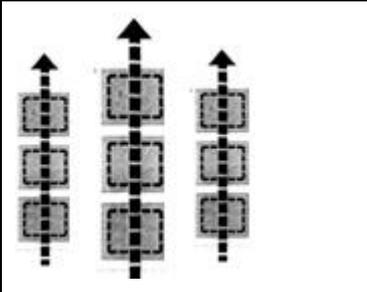
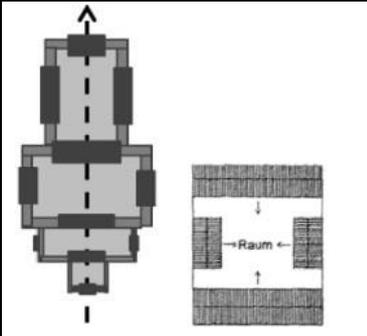


図 2-3

図 2-4



2.1.8 影響要因及び結論

1) 形態特徴の特徴

中心に閉鎖的な方形中庭が配置されている。特にこの中庭に面して講堂という中心的機能の建物が堂々と正対していることが目を引く。また、中庭が位に応じて直列に配される、軸線的構成も特徴的である。

2) 伝統文化の影響を受けた

中国古代建築と大学キャンパスを理解するには、中国の伝統文化の影響を考慮しなければならない。儒学は礼和の秩序を重視し、軸線で表現する。道教は中庸を重視し、対称とバランスの配置を重視する。風水は人和にこだわり、建築の向きと自然環境の関係、求心の配置を運用。この三つの思想はすべて建築思想に影響が大きい、中心性の主導性にも突き出している。

2) 伝統建築形式—四合院の影響を受けた

3) 大学が封建王朝の集権統治の影響を受けた

集権統治下の伝統書院は、王の要求により、政府が建てられた、建築の設計師がいなく。キャンパス形態は階級と序列を主に表現されている。

2.2 1911-1927年 民主革命時期の大学：新学堂と教会大学

2.2.1 当時の大学の歴史と政治の背景

辛亥革命*1が勃発すると、清朝は倒され、中国において2千年余り続いて封建帝国制が終わった。そして民主革命の時期に転換していった。政権は不安定で、軍閥それぞれが領土を占領し、中央政府の集権制御は弱まっていた。大学は完全に独立しておらず、地方政府の大学教育への制御権は依然として存在していた。各地の大学の発展状況には地域間で差があったので、この時期には多種のキャンパス形式が共存していった。

本文は主に2種類の代表的なキャンパス形式を例として討論する。伝統書院を作り替えて中国と西洋の折衷しきの新しい学校—新学堂*3と受動的に外国人教会組織を受け入れて創立し、布教活動などを行っていた—教会大学である。

2.2.2 当時の大学に関する法令*2

1913年の《癸丑学制》と1922年の《壬戌学制》：主として日本の教育制度を参考にし、学校の基本的制度を制定した。

1922年《新学制》の制定はアメリカの大学院教育の体制を主として参考に構成していった。

2.2.3 当時の大学の文化背景

伝統文化と外来文化の二重影響を受けた。日本、ドイツ、フランス、アメリカなどヨーロッパの建築思想を含む、更にアメリカのキリスト教文化の移入があった。学問の自由、民主主義、平等などの思想が芽生え始めた。

2.2.4 当時の大学の教育制度

中国社会が西洋の近代的教育理念を認識し始め、伝統書院型制と封建制の『礼』に縛らずに、西洋的な先進的経験を自由かつ自主的に吸収し始めた。自由と真理を追求し、教育を通じて国家の繁栄を望んでいた。科学的な学科を創建した。今までの学校教育のエリート主義モード、強力に広める、普通教育や学校の数や規模が増え、学部によりキャンパスをわけ、管理制度を始めた。

*1 辛亥革命：1911年、中国でブルジョア民主革命が発生。1912年に中華民国を建てられました。

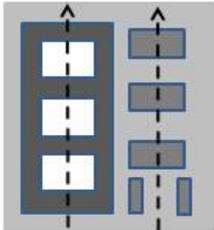
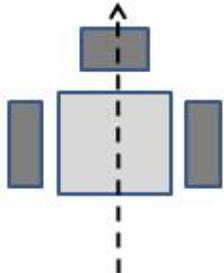
*2：中国の教育が直面している問題は日本の教育のモードにおいては根本的に助けや解決するのができない。そして、新文化運動の開始、大量のアメリカへ留学した学生の帰国によりアメリカの影響力は他国からの影

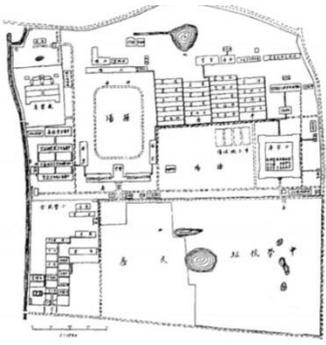
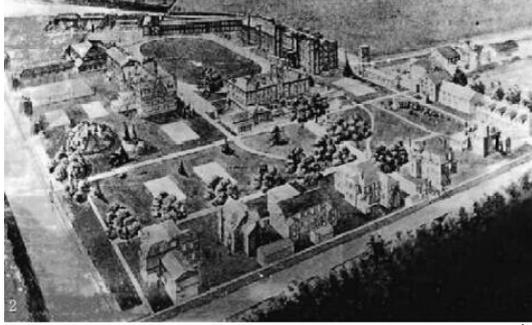
*3：新学堂
1898年、光緒皇帝が康有為の《請飭各省改書院淫祠为学堂折》を採用した。これから書院は学堂に変わった。
陳谷嘉、鄧宏波、「中国院史資」P2470、浙江教育出版社、1998年2月。

2.2.5 当時の大学の社会価値的傾向

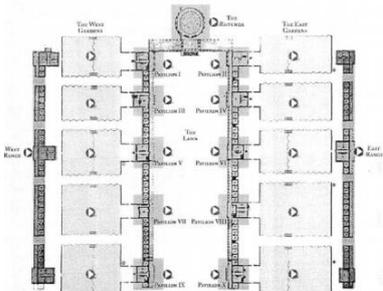
- 1) 新学堂：国内外の困難や問題などを解決するために、先進な技術を学んで国力を増強し、社会発展に必要な応用技術を対象とした。
- 2) 教会大学：中国には儒教に関する教育課程はすでに存在したが、学校での教育に他の宗教は参入していなかった。西洋の宗教イギリス大学を設立し、中国の知識人に影響を及ぼし、文的植民地化を達成することが企画されていた。

2.2.6 新学堂と教会大学のキャンパスの一般的特徴

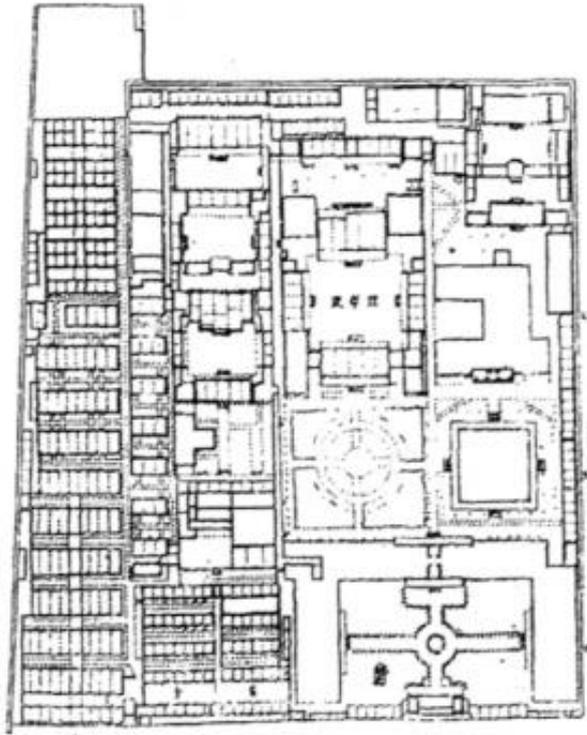
	新学堂	教会大学
機能	本部棟、運動場、ホール、教育棟、図書館、学生宿舎、教職員宿舎、体育施設。	学生宿舎、礼拝堂、教学棟、図書館、体育運動場、屋外緑地、病院、本部棟、学生と教職員の宿舎。
敷地	郊外から都市に移動	郊外
建築	<p>キャンパス管理方式と機能の変化を原因として、“間”を単位とした伝統建築形式に変化生じ、西洋建築スタイルに変わった</p>  <p>三江師範学堂教学棟 龚放、『学堂最為新政大端一张之洞が三江師範学堂の建設から言う』、2002年、第五期</p>	<p>新しい機能をもった施設には建築空間に特殊な要求があるため、キャンパス建築は西洋的な建物空間を取り入れて対応した。一部の事例においては建築空間の概観には伝統的中国式の屋根を用いた。</p>  <p>東呉大学の教学棟 出典：汪晓茜、『移植と本土化的二重奏—東呉大学近代建築文化遺産が我々に対する啓示』、東南大学建築学院、2005-10-30</p>
キャンパス形態	<p>中国伝統的の四合院の建築空間の特徴を持ちながら、西洋中世紀キャンパス形式と建築スタイルの建築配置方式。多軸線を並列で二種類の空間形式。序列関係が弱まる。</p> 	<p>機能で分けの企画方式を採用で、西洋の開放的な広場の空間形式としてキャンパスの空間単位。“十”字型軸線でキャンパスの空間形態の枠組みをとっている。</p> 

	新学院の例：三江師範学堂	教会大学の例：東呉大学
図	 <p>出典：陳曉恬、『中国の大学におけるキャンパスの形態変化』、同济大学、2007年</p>	 <p>出典：汪晓茜、『移植と本土化的二重奏—東呉大学近代建築文化遺産が我々に対する啓示』、東南大学建築学院、2005-10-30</p>

外国建築形式の影響を受けた

新学堂	教会大学
<p>外来建築形式を基本的に維持しながら、伝統的な建築空間の配置のキャンパスの形式を残し続け、一般的は中国と西洋の建物形式の折衷を採用したが、まだヨーロッパキャンパスの全体企画の意識と理念はない。</p>	<p>欧米の大学の企画と建設の理念に中国の伝統的な建築の表現を添加し、機能を強化したパーティション計画の理念を強め。</p>
<p>日中両国の伝統的な高等教育のモードは儒家文化を基礎にして、日本のキャンパスは中国にとって受け入れやすい。</p>  <p>日本 東京大学 1930年ごろ http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 巨大な長方形の草地を中央に3辺大建築で囲む。 2) ほとんどの建物は軸線を基準に配置されている。 3) 中央公共空間や景観などがこうして作り出されている。 	<p>アメリカから移入した宗教大学は中国の伝統的な文化と建築形式を受け入れて、西洋の自由民主思想を表現した。これは教会大学の学生のほとんどの賛同を得た。</p>  <p>University of Virginia</p> <p>李河、『アメリカ大学キャンパス企画変遷研究』、華南理工大学、2004年6月10日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アメリカの開放式の三合院型空間を採用する。 2) 記念性緑空間を中央にして、建築は緑地に取り囲む。 3) 中軸線の対称に沿い、多数の軸とはっきりした幾何型道路システムを配置する。

2.2.7 中心的構成の分析—新学堂の対象作品：北京大学



時間	1912年
位置	北京
面積	21000 m ²

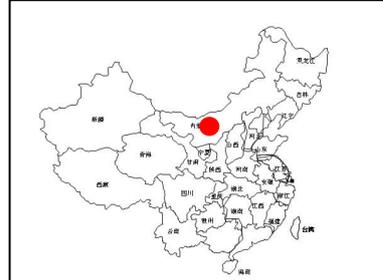
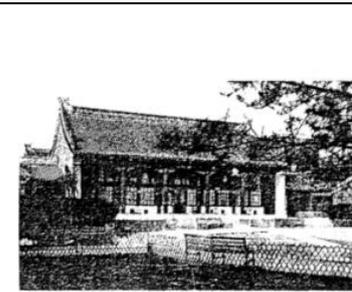
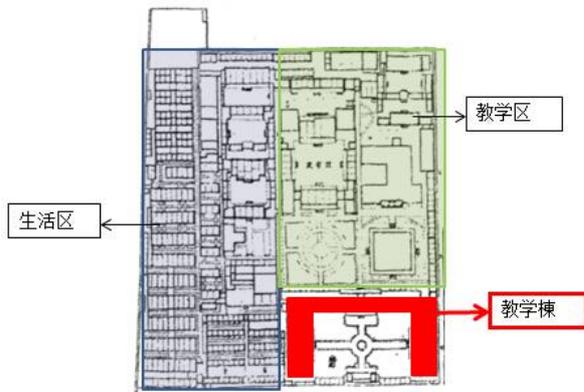


写真1: 地図 北京位置

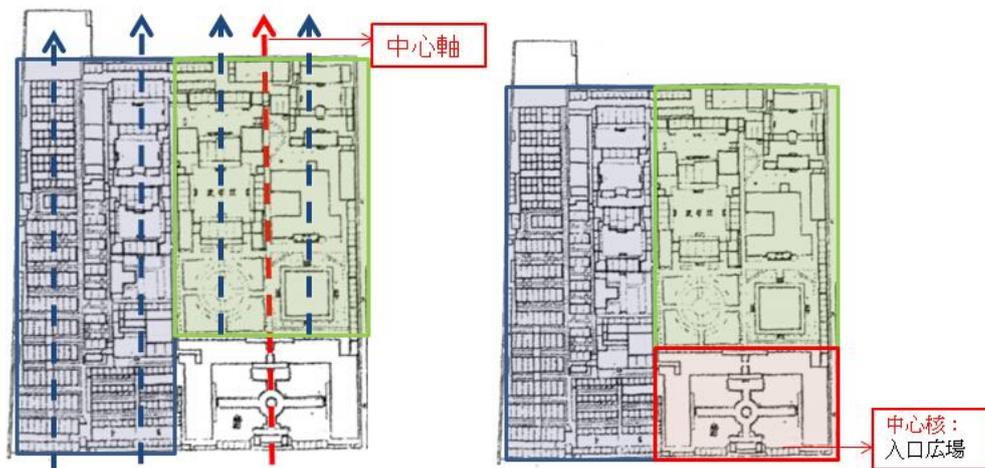


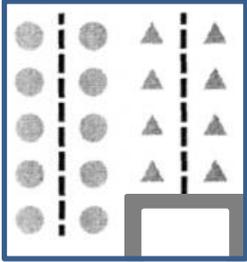
出典：：陳曉恬、『中国の大学におけるキャンパスの形態変化』、2007年



ホール

出典・陳曉恬 『中国の大学におけ



中心的構成の分析		形態分析	
建築	機能	入口にある三合院形式の教学棟は人々の集散の主要外部空間である。	
	位置	三辺から囲み合った入口広場である。	
	体積	大体積の多層建築、単層の伝統式建築より大きい。	
	形態	古典の西洋式多層建築形式であった。	
中庭	機能	生活宿舍区, 教学区など多種類の機能に変化している。	
	位置	元の四合院落をキャンパスの側に保留し、四合院が本来の軸を引き続き維持した。	
	体積	西洋式中庭の体積が大きい、伝統建物の尺度が小さい。	
	形態	伝統の四合院形態、三合院、口字型などの多種形態であった。	
形態枠	点		
	軸	キャンパスの中心軸線は平行で数軸線に変化し、入口広場にあった対称軸線と交通軸線を重なったところは中心軸線である。	
	核	キャンパスの南入口は集散と人の流通、キャンパス内外を関係する重要な場所である。	
	区		
中心性の表現：建築、中心軸、中心核			

2.2.8 中心的構成の分析—教会大学の対象作品：華西協和大学



時間	1924 年
位置	成都
面積	667000 m ²



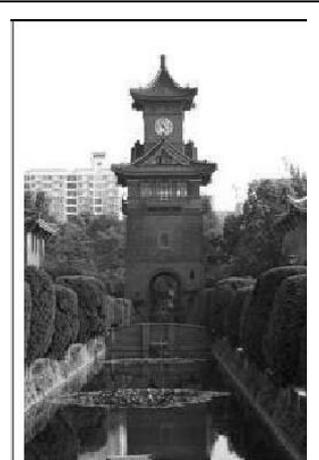
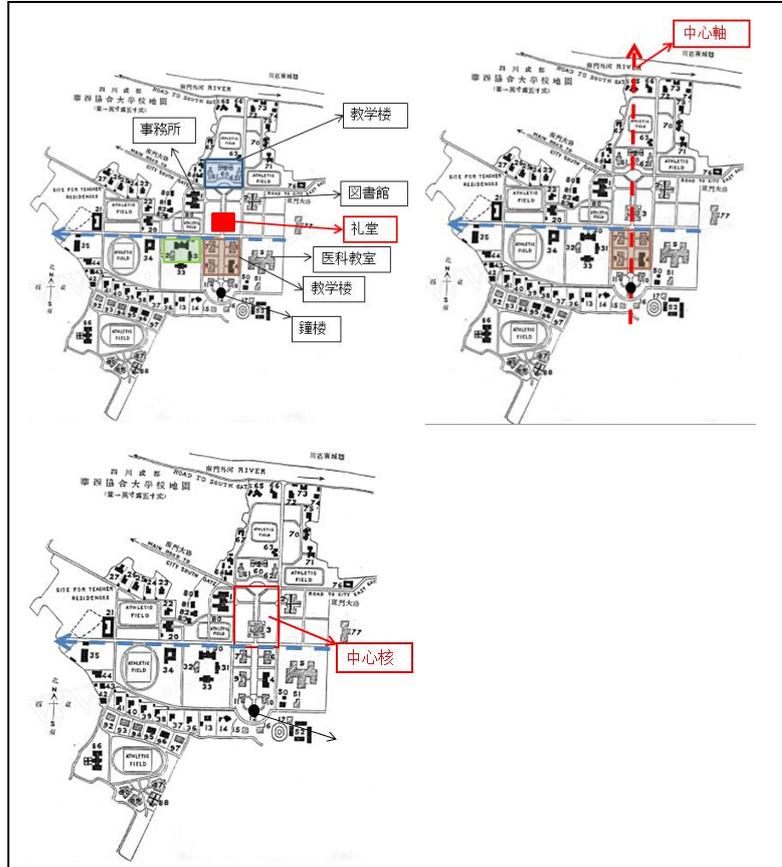
成都在中国的位置



華西協和大学在成都的位置

大学の位置

出典：董 黎、『中国近代教会大学キャンパスの建設理念と企画模式—華西協和大学を例とする』、广州大学 建築と都市企画学院、2006-9



鐘楼



ホール

出典：李晶晶、『華西協和大学近代建築研究』、華橋大学、

中心的構成の分析		形態分析	
建築	機能	ホールを主要建築としている。	
	位置	ホールは中軸線の真中、その他の教育建築は対称に軸線の両側にある。	
	体積	主建築は体積が大きい、方かの建築は礼制的に配置する。	
	形態	対称の西洋建築と中国式建築を組み合わせた屋根形態である。	
中庭	機能	教学棟と宿舍で囲みになり、多機能型の建物である。	
	形態	開放的な三合院空間軸線の引き伸ばす	
	位置	道路と軸線の両側軸を平行にするように位置する。	
	体積	体積が大きい。	
形態 枠	点	鐘楼	
	軸	中心軸は主要の交通道路で、主要建築は集中的に中軸線の両側に配列している。	
	核	礼堂の周囲の広場と緑地を中心核とする	
	区		
中心性の表現：建築、中心軸、中心核			

2.2.9 影響要因及び結論

	新学堂	教会大学
1) 形態特徴	<p>西洋式広場に建築を加えてセットになり、建築の作用が重要となっています。</p> <p>B1 入口広場に面して三合院形式の教学棟を主要建物である。</p> <p>B2 伝統四合院形式と西洋建築形式が中心軸に沿い二つ部分をわけた。</p> <p>B3 外来型の大学と中国の伝統の折衷と捉えられる。</p>	<p>伝統書院中の道路システムの建立は建築群形態の附属性を抜け出した、独立した系統となりつつあり、キャンパス全体の空間形態にも骨格の役割をしている。</p> <p>このキャンパスの特徴は主要交通道路を主軸線として、広場と三合院建築形式の空間序列をコントロールしている。</p> <p>機能区分の企画方式を採用で、主要建築は集中的に中軸線の両側に配列している。</p> <p>十字軸交差点にある広場とホールはセットで中心部分になっている。</p> <p>これらの特徴はアメリカキャンパスの明確道路システムと対称の開放的三合院の配置とよく似ている。</p>
2) 外来形式の影響	<p>外来型の大学と中国の伝統の折衷と捉えられる</p>	<p>米国キリスト大学の形式</p>
3) 政治	<p>中央政府の集権制御は弱まっていった、大学は軍閥や民族工商企業の支持で建設され、地方によって大学の発展、キャンパスの形式も違う、多種の類型が共存の多元化時期である。</p>	

2.3 1927年-1949年 中華民国期の大学キャンパス

2.3.1 歴史と政治

軍閥戦争終了後、南京国民政府が当時の政権を統一的に管理し、民主集中制と党の絶対支配の実行、自由主義の反対、伝統と古典の国家主義* 1を回復した。1937年、日中戦争が始まった後、建設されていた多くの大学のキャンパスが壊され、大学の発展速度を阻害した。

2.3.2 法令

1928年2月に『私立学校条例』を發布し、私立大学と教会大学の管理権を取り上げた。

1928年に国民党が第二次4回全体会議の後に『大学院制』は停止され、中央集権統制の教育部が変わって設立された。

1930年、『民族主義の文芸運動宣言』と1935年『中国本位の文化建設宣言』を提唱して儒家思想と礼儀正しさ、建築の計画上も政府の指令を通じて『中国固有の形』により伝統建築形式を推進した。

1930年南京『首都計画』で首都の都市設計は宮殿建築を参考した。

2.3.3 文化

一つの党の統治を実現するため、伝統文化の復興と古典文化の民衆主義を推し、祭孔の提唱、儒教の伝統的なマナー、礼儀などを提唱していた。

2.3.4 教育

教育行政においては、国家統一管理の主張。教育独立を廃止し、党化教育を実行した。

2.3.5 キャンパスの価値傾向

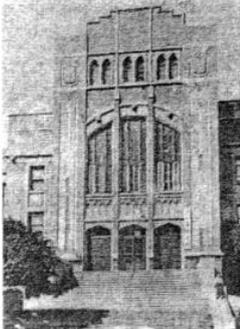
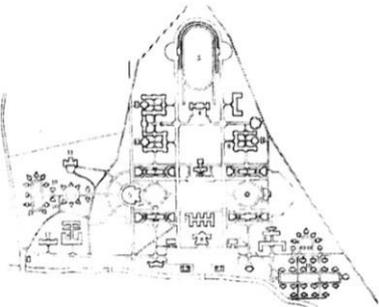
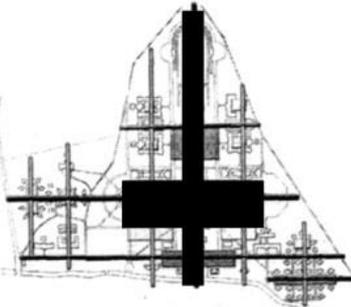
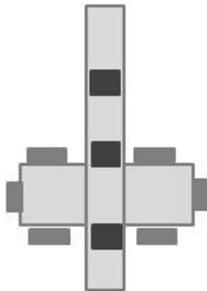
規律的な軍事化の人材を育成する。

*1 国家主義(nationalism)

とは、国家権力を中心に、『権力至上主義』という価値ベースを普遍的に存在する社会イデオロギーの分野での観念の体系である。

主な内容は、国家権力が第一であることを強調し、全てを支配する。国家主義から見れば、個人の権利はそれ絶対服従しなければならない。国の権限と国家権力至上が一切の法律制度を制定する。

2.3.6 民国時期の大学キャンパスの特徴

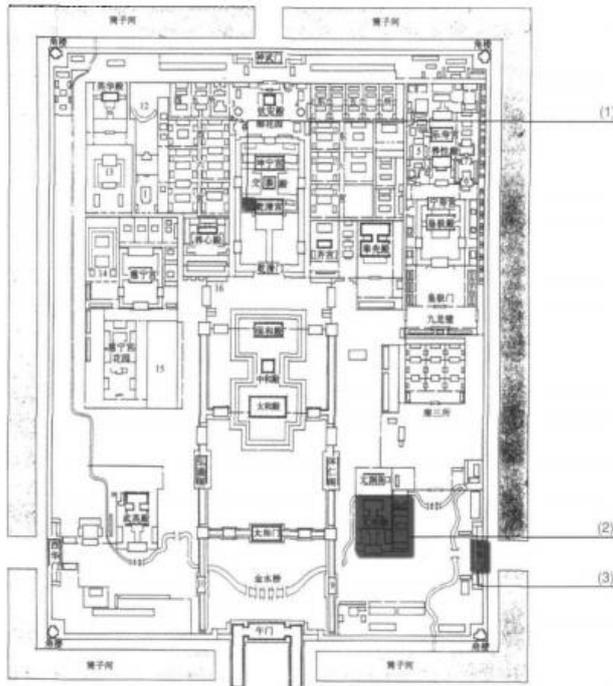
機能	中心広場、大講堂、教室棟、図書館、体育活動場や体育館、景観緑地、行政、オフィスビル、教職員宿舎と学生寮、食堂。
敷地	都市内
建築	<p>重要建物の形式は中国の伝統的形式と西洋形式を採用した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 東北大学図書館 東北大学体育館 </p>
キャンパスの形態	<ol style="list-style-type: none"> 1) パーティション機能を明確、中国の伝統的な宮殿型制に真似して、前は朝廷会議場、後は寝室でキャンパスのパーティションを企画した。 2) 主要建築、キャンパスの空間は中軸線に沿いで展開。 3) 伝統的な四合院空間ユニットをキャンパス空間の組成単位としていた。 4) 単中心を強調し、軸対称、補佐平行、副次的な軸線に垂直する発展形態。 5) キャンパスの形態と景観デザインでは平面のパターンを重視。中国の伝統的な『中』、『亜』、『工』字の形がよく使われた。
大学の例	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;">    </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 東北大学 1923年4月 東北大学分析図 『中』の字形の形態の枠 </p> <p>出典：王建国、『杨延宝建築論述及び作品集』、中国建築工業出版社 1997年</p>

似てる建築形式	新しいマナーを強調し、重々しい威厳感を描き出す。中国伝統官式の建築形式を追求した。
---------	---



蜀王府

出典： 明代蜀王府案内図『成都通史』四川人民出版社



北京国子監*1

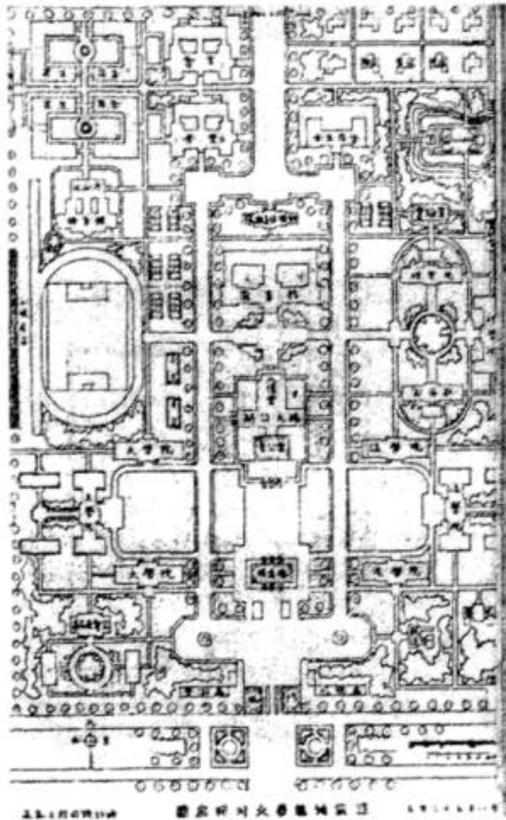
*1 国子監。我が国の元、明、清王朝の3つの王朝の国家管理教育の最高行政機関である設立の始まりは、紀元1287年、現在北京東城区安定門内国子監街。レイアウト形式は庭直列、主院は建築を中心に、皇帝の学習地である、他の建築を軸対称と囲み式で配置する。

沈旻、『明清北京国子監孔廟の空間配置の演变』、建築学報、2010-06-21

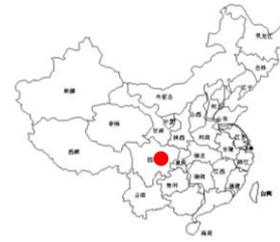
伝統宮殿建築の特徴

- 1) 宮殿のグラフィックレイアウトは左右対称の重視とセンタリングを尊ぶ。
- 2) 宮城の南北中軸線表現に帝王巡礼の道、これを中心に左右に広がっている。
- 3) 中央宮城のレベルは高い地位を顕著的に表現し、雄大な建物を軸線の北端に配置し、その雄大な勢いが皇帝の権力の威厳を示していた。

2.3.7 対象作品の中心的構成分析 四川大学



時間	1931年
位置	成都

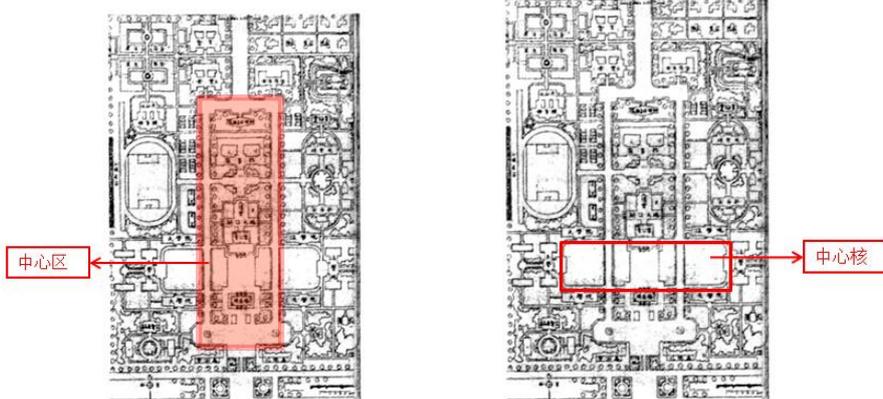
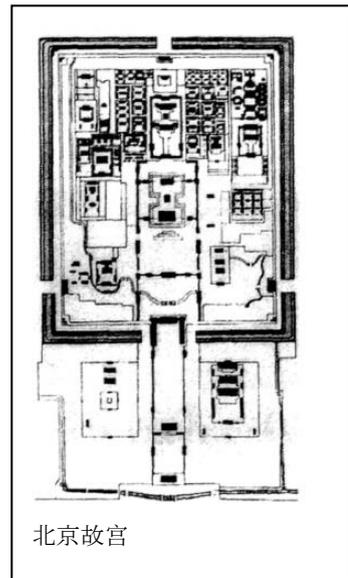
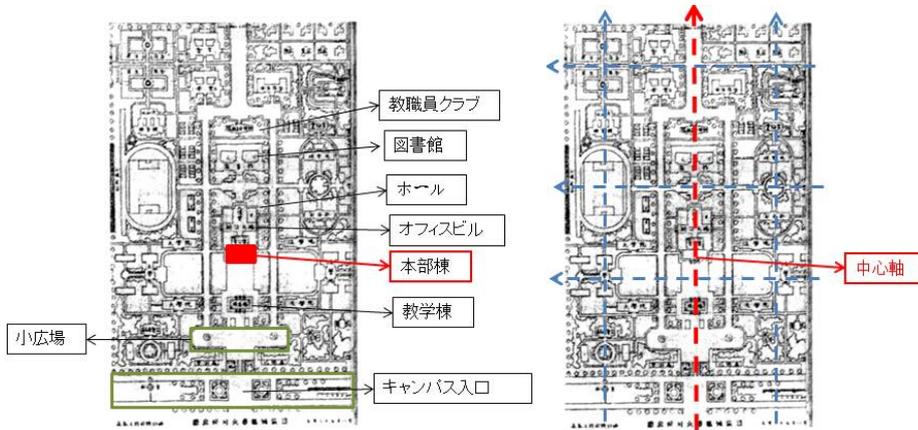


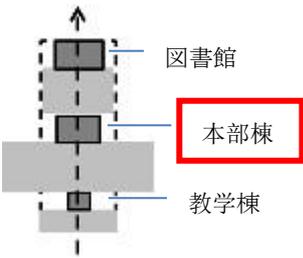
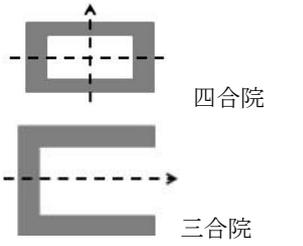
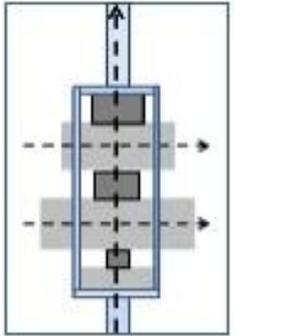
成都位置



成都近代地図

出典：王建国、『杨廷宝建築論述と作品集』、中国建筑工業出版社、1997年



中心的構成の分析		形態分析	
建築	機能	蜀王府の残留古建築である『致公堂』を本部棟で、キャンパスの中心の建築である。	
	位置	南北主軸上にあり、北京故宫の“太和殿”との位置は対応して、“礼制”的空間になっている。	
	体積	他の高い教育建築と比べ、壮大な地位、中心的な地位を表徴している。	
	形態	中国の伝統的な宮殿式の建築形態である。重檐庑殿の屋根の表現は最高の地位等級である。	
中庭	機能	宿舎、教室、実験室と生活などの機能である。	
	位置	中心軸の両側に学院をユニットでの建築群である。	
	体積	西洋風の大きな広場と比較して小さい。	
	形態	伝統の四合院や三合院の閉鎖空間ユニットで対称配置である。	
キャンパス形態	点	景観としての彫刻であるが、中心性的な作用を持っていない。	
	軸	南北方向の中心軸は空間軸であり構成軸でもある。伝統的な宮殿の礼制にレイアウトや中心を尊の理念を強調する軸である。空間軸南北やものとともに双方向で成長する。	
	核	本部棟とその前の大きな広場で単中心核を形成する、前後のその他の核を導く。	
	区	いくつかの主要な機能の建築と広場がキャンパスの中間で長方形のブロックを形成、皇城の中の皇宮の位置を似ている、“居中為尊”の意味を示す。	
中心性の表現：建築、中心軸、中心核、中心区			

2.3.8 影響要因及び結論

1) 形態の特徴

南北軸を強調してキャンパスの中心を主導する、軸や軸の対称配置と求心式の構図である。開放的西洋広場と本部棟でセットになり、中軸線上に配置している。

幾何学形の規整的グリッド道路システムです、中心に沿い軸線を対称配置している。

2) 伝統文化の復興の影響

これらの特徴は中国伝統宮殿式の建築形式と似ている、『居中尊ぶと為す』の伝統観念を表現した。礼制性の軸線が中国の宮殿建築群式の拝謁経路を表現したものである。

3) 中央集権の影響

学校は政府の中央集権の制御を受け、役人は大学学長を兼任する。国民政府総理が国立中央大学の校長の役も任され。大学はもはや独立な学術機関ではなく、政権下の社会機構となった。キャンパス形態の設計は自由に行うこてゃ出来なかった。

2.4 1949年-1966年 中華人民共和国成立初期の大学キャンパス

2.4.1 歴史と政治

1949年に中華人民共和国が成立された。戦後の中国は経済が退廃的で、農業生産は国家の経済に主導的地位を占める。1952年、社会主義の工業化活動を全面的に改造し、同じ社会主義であるソ連に面し、勉強する。

西洋由来の『自主と学術の自由』を核心的価値としていた学術研究制度は廃止され、代わりに『国家政府直属』のような制度へとへんぼした。大学のキャンパスの形態も次々に統一化や形式化され、ソ連型キャンパスによる古典主義を基としたものに変化した。1957年ごろにはこうした社会主義的な改造が完成した。大学は中央集権化の限り、等級化と専門化のキャンパスになった。

2.4.2 法令

1949年12月《高等学校課程の改革を実施に関するの決定》快速的に大量的に新中国を建設する人材を育成するため、大学の専門や課程や学制などが国家から調達する。

1956年《中華人民共和国高等学校定款草案》を公布、以前のソビエト連の模式をもとに高等教育制度の基本的ものを確立した。

2.4.3 文化

マルクス主義の思想を主導である。ソ連の模式に中国の伝統建築文化の結合、及び社会主義思想である。

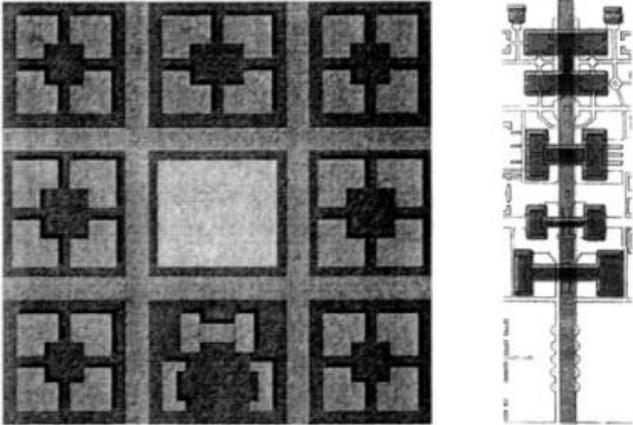
2.4.4 教育

少数をエリート式の教育に対して、都市産業と関連のキャンパス機関を設置した。社会主義工業計画と国家経済産業部門に関連付けの関係を強調した。

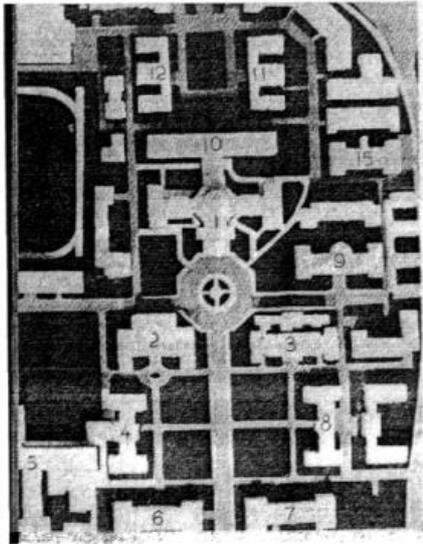
2.4.5 キャンパスの価値傾向

大学教育は、社会に奉仕し、生産と労働を結び付け、全面的に発展する人を養う。大学内の等級を強調する観念と高等教育は政治にサービスする理念。

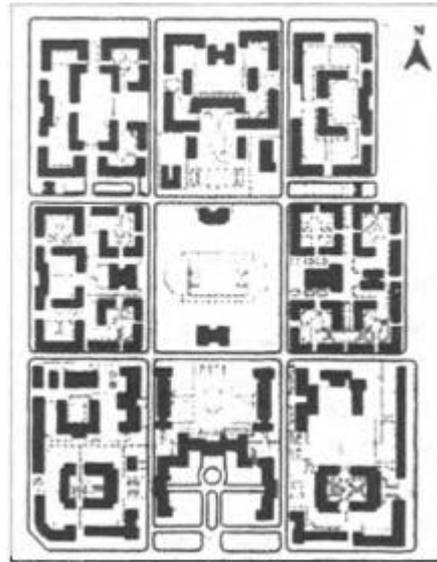
2.4.6 新中国初期のキャンパスの特徴

機能	入口広場、主建築棟、教学区、行政区、図書館、体育活動区、教職員宿舎と学生宿舎、食堂と職員クラブ、浴室、郵便局などのサービスエリア
敷地	国家や地方政府の土地、郊外にし、教育区を形成する
建築	<p>この時代、中国の大学キャンパスの表徴は厳かな入口広場と正対面の大きな建築が対称的で『工』字型である。形式は中国伝統的大屋根形式にソ連風の工字型の本館建築を加え、労働者階級を代表する。</p>  <p>南開大学の主要建物 出典：http://www.nankai.edu.cn</p>
キャンパスの形態	<ol style="list-style-type: none"> 1) 巨大の入口広場と教学棟をセットになって注目の表徴性場所です。 2) 格子ネット型道路システム、単中心軸、均質のキャンパス空間、対称配置から政権とコントロールを現したキャンパス形態である。 3) 儀式性の中心形態軸は中国の伝統都市の構造を続いている。  <p>出典：陈晓恬、《中国の大学におけるキャンパスの形態変化》、同济大学、2007年</p>

民国大
学の例



南京工学院

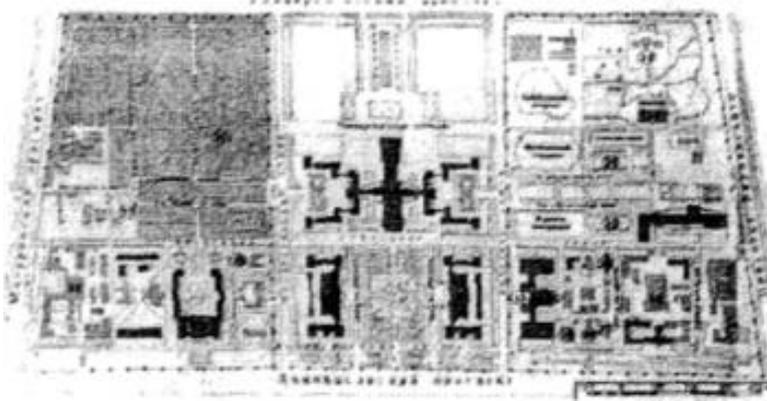


北京钢铁学院

出典:孫磊磊・姜輝、『大学キャンパス群像』、東南大学出版社、2006-3

外国の建築形式

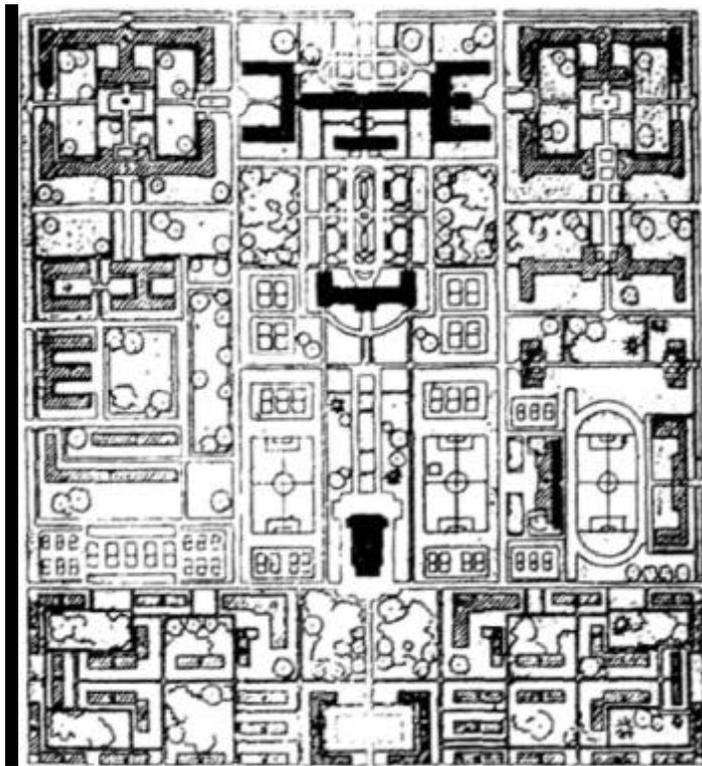
ソビエトの古典主義をもとに形式主義のキャンパスを模倣



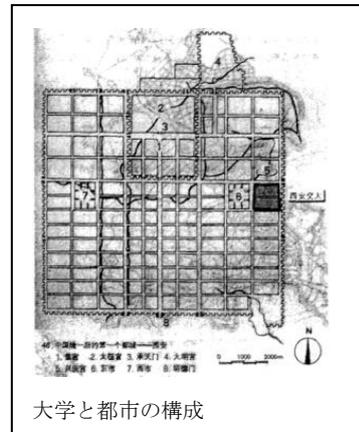
モスクワ大学 図の出典 <http://www.msu.ru>

- 1) 三辺囲合の入り口広場は主要な建築のキャンパスのシンボリックな地位を強調した。
- 2) キャンパス全体との影響、及び、キャンパスの他の構成要因とこの中心との主従、付属の関係を強調する。
- 3) キャンパスの中軸線と両辺の均質空間構成は無限機能主義と社会主義の記念性、民主性、平等性の追求。
- 4) 大規模と大尺度は民族の誇りを強調する。

2.4.7 対象作品の中心構成分析 西安交通大学

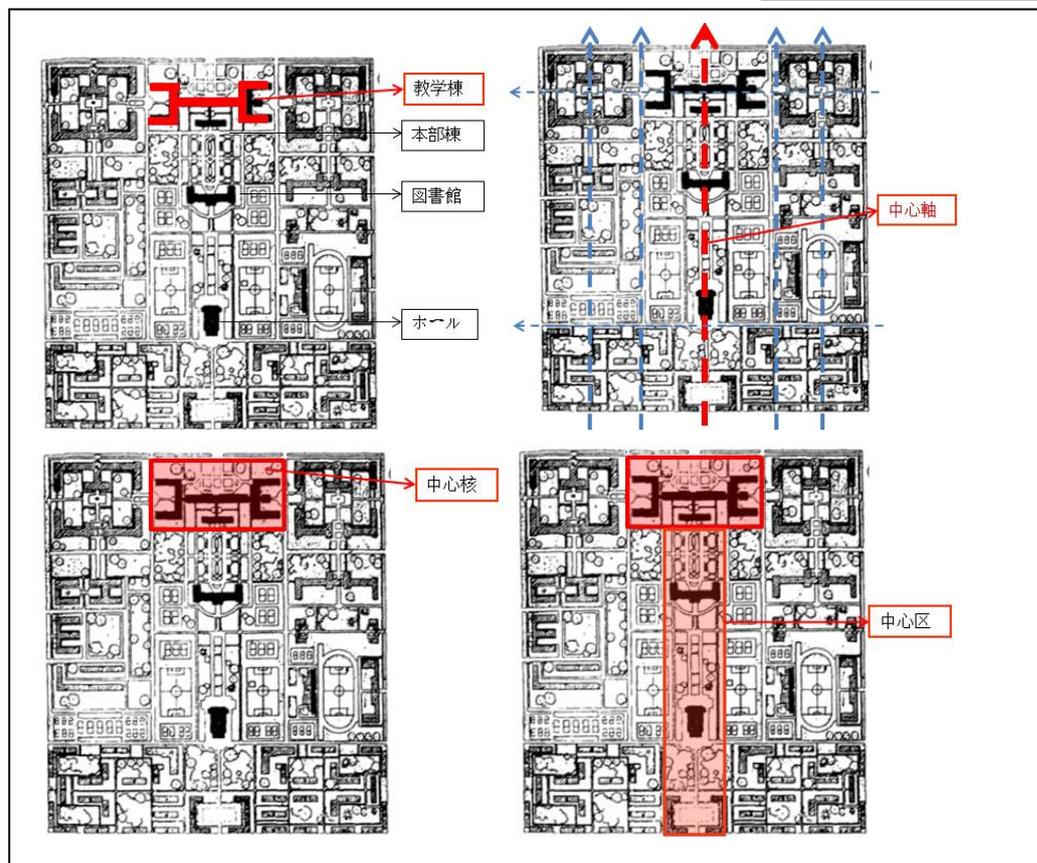


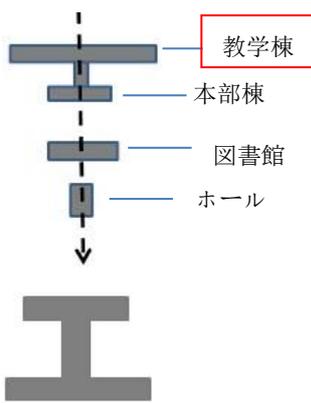
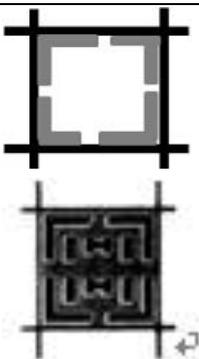
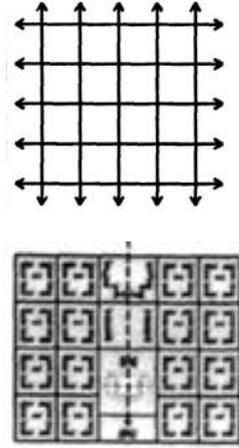
時間	1956年
位置	西安
面積	172000



図の出典：饒卫国、「建築師」第34期、中国近代大学キャンパス企画

分析図



中心的構成の分析			形態分析
建築	機能	主な建築は教学棟、本部棟、図書館、ホールの順に中軸線上に配置。教学棟は主棟で広場及び広場上の人とモノに完全の統治権を持っている。	
	位置	正門に直面し、入口広場の中軸線上にある。	
	体積	体積は巨大、長辺の長さは広場と同じ、当時においては西安の最大建築である。キャンパスの中心で、更に都市の表徴性の建物である。	
	形態	『工』字型の平面は労働者階級を重視したキャンパス価値傾向を表す、ソ連式の主体部分と中国の伝統建築の屋根で構成している。	
中庭	機能	教学棟、宿舍、生活などたくさんの機能を含まれた。	
	体積	伝統四合院の尺度より大きい。	
	位置	中軸線の両側の附属軸線上にある。	
	形態	辺を埋め込みしたソ連式の四合院と局部分の三合院の形式である。	
形態	点	主要な位置に彫塑とノード結節点を配置する。	
	軸	南北方向の中心軸線は対称性と形式性がある、キャンパスの組織モデルを制御している。東西向き附属軸とネットワーク式の道路システム構造を形成する。	
	核	中心性建築とこの建築が面した広場で三辺に囲まれたエリアを形成する。	
	区	中軸線の沿いに配置した広場、道路、建築など、これらがキャンパスの中心エリアを形成する。	
中心性の表現：建築、中心軸、中心核、中心区			

2.4.8 影響要因及び結論

1) 形態の特徴

キャンパスの平面形態はきちんと整って、依然として南北軸線の主導的なキャンパス中心を強調して、高くて大きい主棟、巨大な尺度の入口広場、単中心軸線で形式の感を表す、中心軸線の両側に沿って対称的に配置して、キャンパスのパーティションが規則正しく分け、道路は直角に交わす式のグリッドで、キャンパスの中心性部分の表現が強める。

2) ソ連のキャンパスの形態の影響

ソ連モードを模倣した。キャンパスの尺度は大きく、等級化、壮大、記念性と社会主義制度の下の民族の誇りを表現する。ソ連のキャンパスの形態と中国の伝統的との結合から、伝統の文化の影響は依然として存在する。

3) 中央政府の高度集権化の影響

中央政府は大学の発展を制御している、キャンパス建築形式は社会主義形式の表現を要求している。

2.5 1966年-1978年文化大革命期の大学キャンパス

2.5.1 大学の歴史と政治的背景

1957年にソ連との関係が決裂した後、ソ連のキャンパスについて再び評価が分かれ始めた。当時は経済が困迷している状況で、誇張や浪費を伴う形式主義に対して否定的であった。核心的個人の権威を持った毛沢東主席の統率する時代になり、1966年から1978年間で文化大革命の発生により、すべての伝統文化と西洋文化の否定、毛沢東に対する個人崇拜が最高潮に達した。

無政府状態、混乱、暴力行為が横行し、大学入試は行われず、正規の大学が減るなど、この時期、中国のキャンパスの発展が停滞あるいは完全な壊滅状態に陥った、この時期に新たなキャンパスの建設はなく、すべてソ連モデルでの改造にとどまった。

*1《教育革命綱領》：1、各産業はすべて教育をしなければならず、教育の社会化を主張します；2、学びを主として、開放的な教育を主張します；3、資産階級のコントロールを行わせ続けてはいけない、教育の主導権と教師の世界観の問題を正しく解決することが必要です。

出典：《東方教育的崛起-毛泽东教育思想和中国

2.5.2 大学に関する法令

1958年に高等教育部を廃止し、ソ連モデルの大学制度を否定した。

1966年に《教育革命綱領》は精華な教育モデルを削除し、学校間の格差を無くす。

1971年に《高等学院の調整方案に関して》学校の数が削減され、農村へ移された。

2.5.3 大学の文化背景

毛沢東思想が最も重要な基本理論とされ、伝統の文化と外来の文化を完全に否定した。

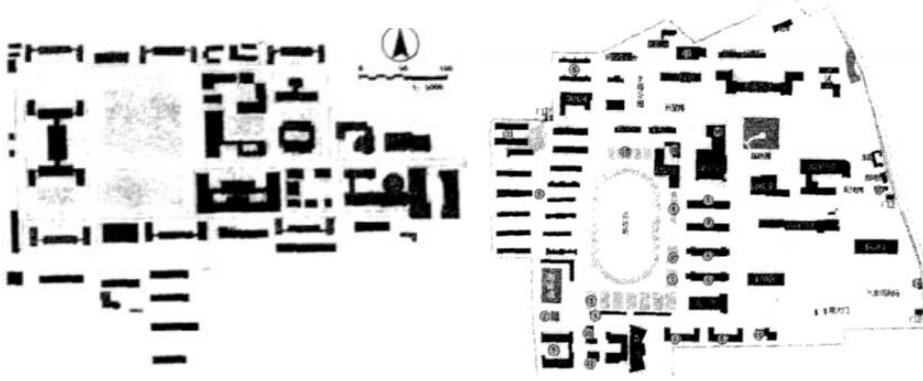
2.5.4 大学の教育制度

階級闘争を実行するために、大学は生産労働を必ず正規の課程に取り入れなければならなかった、学校は内部に工場あるいは農場を設立した。

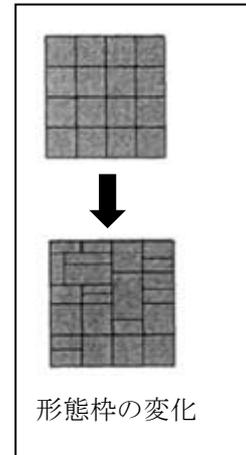
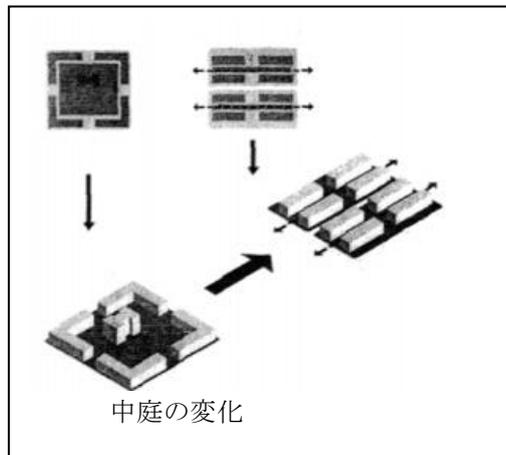
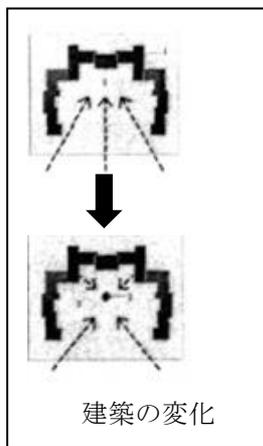
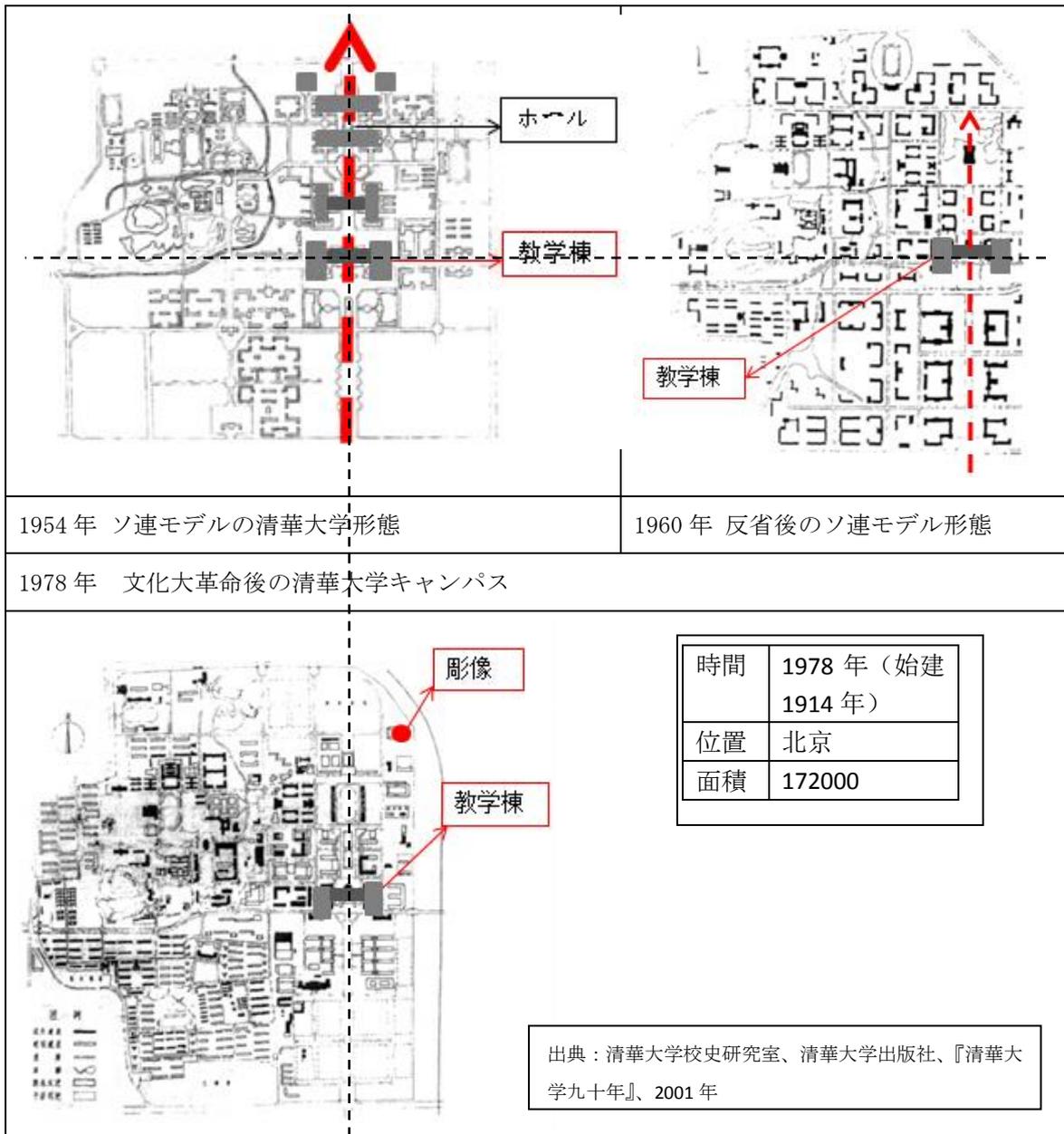
2.5.5 大学の社会価値的傾向

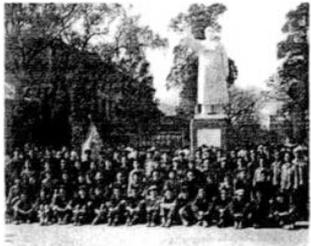
平均主義の社会と思う。学生の専門と卒業後の仕事はすべて国家が統一的に配属する制度があった、自由に自己の進路を選択する権利はなかった。

2.5.6 大学キャンパスの一般的特徴

キャンパスの機能	<p>教学棟、本部棟、図書館、体育活動区域、教職員宿舎、学生の寮、食堂、しかし休憩、娯楽、生活地区は最小限に減らし、大講堂の建築は改造された。</p>
敷地選定	<p>農村で学校と工場又は畑の結合</p>
建築	<p>無専門設計の簡易形式、経済と実用なため、民族の象徴を誇りの大きい屋根形式から簡潔的な平屋根の形式に変わった。</p>  <p>清華大学白区中心主楼</p> <p>出典：陈晓恬、『中国の大学におけるキャンパスの形態変化』、同济大学、2007年</p>
キャンパスの形態	<ul style="list-style-type: none"> ● 象徴形式である主軸線の幅を減らし、入口広場は占用され、耕地あるいは工場になった。 ● 建築は“行列形式”あるいは“あらゆる可能性を利用する”などの乱雑な配置の方法で建てられた。 ● キャンパスの形態の中心では毛主席塑像の地位が著しい。キャンパスの中軸線上に配置し、正門の入口広場の中心に、彫像の正面が正門に向き、背面が主楼建築に向かって、配置される。
例	 <p>北京外国語学院</p> <p>南京気象学院</p> <p>出典：http://www.bfsu.edu.cn</p> <p>出典：http://www.nuist.edu.cn</p>

2.5.7 対象作品の中心的構成の分析：清華大学 1954年 1960年 1978年



中心的構成の分析		形態分析	
建築	機能	保留されているソ連モデルの建築主楼を行政楼に変更	
	位置	正門に面し、入口広場の中軸線上	
	体積	体積が比較的に大きい	
	形態	『工』字型の平面、簡潔で平な屋根	
中庭		本来は四合院(旧式の家)の形式は破壊させられ、空スペースを利用して気の向くままに建物に配置する。行列式で平行する配置、建築規制やルールなどなし。	
キャンパス形態	点	歴史象徴意義がある正門を取り壊され、毛沢東彫像を設立した。キャンパスで大きいイベント活動等全部この彫像の周りで行う。形態と視線の重点はもとの本館からその前方の塑像に移る。	 清華大学の元校門  元校門は立像に変わった
	軸	中軸線の幅が削減され、形式軸の効果が弱まり、交通道路の空間軸線の効果だけになる。行政楼前の新軸線がキャンパスの中心軸になっている。	
	核	広場は畑や構築物に占用され、面積の尺度が縮小され、機能が弱化、中心性が削減される。	
	区		
中心性の表現：建築、中心点			

2.5.8 影響要因及び結論

1) 形態の特徴

工事は例え行われたとしても、無計画でそのままであった。入口広場と主軸線の幅を減らす、建築が行列式で配列し、中庭に形成してない。主要建物の前面に広場がとられ、毛沢東の立像がその中心におくことが一種の定型となった。

2) 政治混乱， 経済貧困

この段階は無政府状態で階級の争いと経済が困難で大学キャンパスの発展を阻害した。新キャンパスを建設されず、旧キャンパス上で任意的に工場と建築を加えた。キャンパスの建設は経済性と実用性だけを求める時期であった。

3) 個人崇拜が大学に浸透したことの現れ

1967年の清華大学は大学の象徴性である正門を毛沢東の立像に変わった。あれから、各地の大学もつきづきに立像が置かれた。



北京科技大学



北京体育大学



北京郵電大学



大連理工大学



河南師範大学



華中科技大学



華東師範大学



山西大学



湖南大学



北京化工大学

2.6 1978年-現在、改革解放後の大学キャンパス

2.6.1 当時の大学の歴史と政治の背景

1978年文化大革命が終わり、中国が改革開放の政策を実施した。中国高校選考制度の回復、大学の体制と教育が大きい改革を進めた。更に世界各国の先進大学に学習し、開放の政策と快速の経済成長の進む下で、大学の形態も多元的開放性へと移り変わっている。

1992年から社会主義経済への転換後、大学は自主権が有し、国立、私立、多校合併など形式の大学が現れた。しかし、国家政治と法令は依然に大学の教育とキャンパス形態の発展に支持又は約束の作用をしている。

2.6.2 当時の大学に関するの法令

1978年12月、中国共産党十一届三中全会後『改革開放』政策を実施高校選考制度の回復。大学教育も回復と発展した。

1985年『中共中央关于教育体制改革的決定』欧米高等教育模式を主に、世界各国大学の発展経験を参照。

1992年『第四次全国高等教育仕事会議』*2後、中国高等教育体制が改革開始。

1992年から大学が企業主体地位と自主権もある。

1993年『中国教育改革と発展綱要』及び『綱要の実施意見』明確に大学等級の分け、等級により社会資源の占用に限定した。

2.6.3 当時の大学の文化背景

改革開放後、文化は多元的開放性である。理性的に世界各国の先進文化を学び、欧米大学が主に学習対象となっている。伝統文化は新たに重視されました。

2.6.4 当時の大学の教育制度

自主的と多様化的現代高等教育体系、学術自由、学術自治及び大学独立的観念と精神、現代高等教育制度、学術自由を実行している。

2.6.5 当時の大学の社会価値的傾向

社会、経済発展に専門性を持つ人材を養成。市場需求と個人追求に自己的に専門と仕事を選ぶ。個人の価値の実現する方向へ向かっている

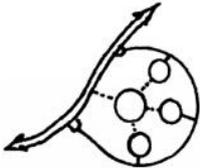
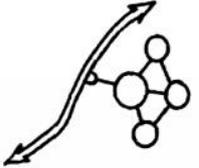
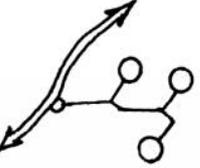
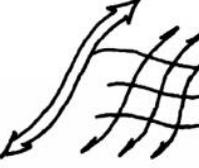
*1 改革開放

国内で改革を実施、国外においては開放政策。教育、政治、経済などの多くの方面に含む。社会生産力の発展と解放、更に思想解放、中国スタイルの新的社

*2 内容：「大学は空前の

規模で教育を拡大する；学校を設立・計画経済体制の下での国家的運営方式から、市場の経済体制の下で多様化に転向させ；管理体制は集権から各校の自主権に転じ強めに管理します；体制に投資するのは政府に頼るから資金を割り当てて各級の政府の財政支出に転向する、主なで、その他の社会团体、個人などは多ルートで資金を調達

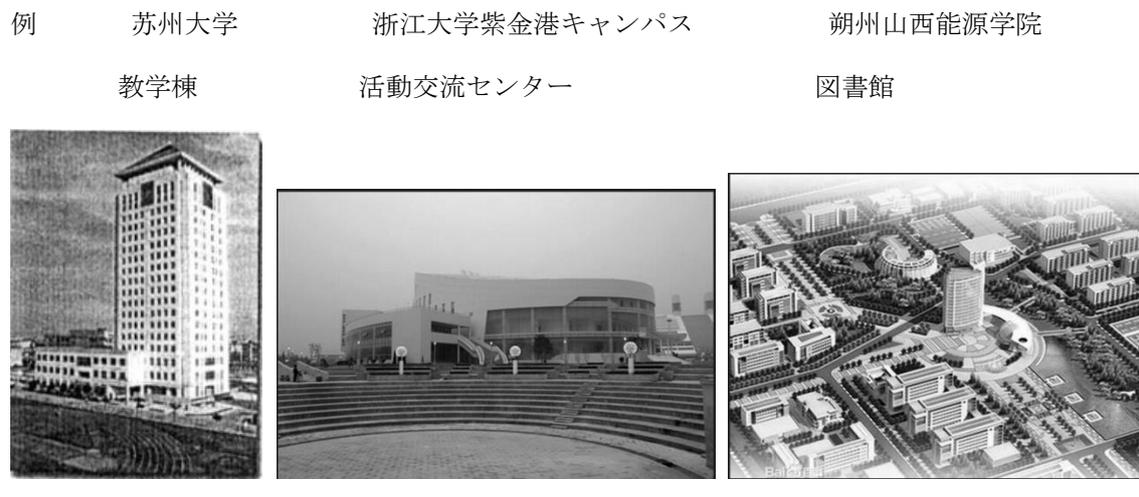
2.6.6 当時の大学キャンパスの一般的特徴

企画理念	現代主義のスタイル主義の多元化発展で、形式を強制的に要求していない。
キャンパスの機能	<p>キャンパス規模の拡大とともに、大学キャンパスの機能も豊富と複雑に変化した。キャンパスのサービス対象は学生と先生だけじゃなく、職員、社会人も面している、単になる学習場所ではなく、学習と生活及びコミュニケーション的の総合性の小都市区でもある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教学中心 教学区教学楼、自習室 実験科学研究区実験室、研究室、製造室 情報区図書館、情報、情報センタビル、問い合わせセンター</p> <p>生活中心 飲食区食堂、軽食店、喫茶店 居住区教師のマンション、学生寮、応接室、来賓ホテル、洗浴センター 交通区バス停、駐車場、天橋 商業区売店、飯店、スーパーマーケット</p> <p>行政センター オフィスビル、教師育成訓練ビル、会議のリポートホール</p> <p>交流センター 活動区域展覽館、講堂、学生のクラブ、教師のイベント室、学生のイベント室、上映ホール スポーツ区屋内プール、室外のグラウンド、体育館 景観センター広場、緑地、湖</p> </div>
敷地選定	新キャンパス面積は巨大なため、経済的観点から、大半の大学は郊外に新キャンパスを建設し、集まって文京地域を形成している。
建築形式	現代建築形式、体積が大きい、多フロア建築。
キャンパスの形態	<p>大学は機能により区域を分ける。</p> <p>キャンパスの交通システムの建設に重視し、歩行を主、人と車は分ける。</p> <p>大学キャンパス形態は多元化の方向へ発展し、地理と文化の結合に重視、交通システムで景観の形成する構造を結び付け。基本類型：線形、環形、グループ形、枝系、ネット枠形、自由系と総合系など。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>環形</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>グループ形</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>枝系</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ネット枠形</p> </div> </div>

2.6.7 中心的構成分析建築、中庭、キャンパスの形態枠

(1) 中心性を有する建物

現代大学の大部分は教育研究資源集中化の管理方針のため、各専門学科の教育資源の管理は一つの建築の中に集中している。又は現代キャンパスの規模が大きく、人数が多いため、主要建築の体積は大きく、利用率も高い。中心位置に置き、交通する距離が減少に有利である。現代、多くの大学は情報と学術文化交流の機能を有する図書館を中心性建築と言われている。

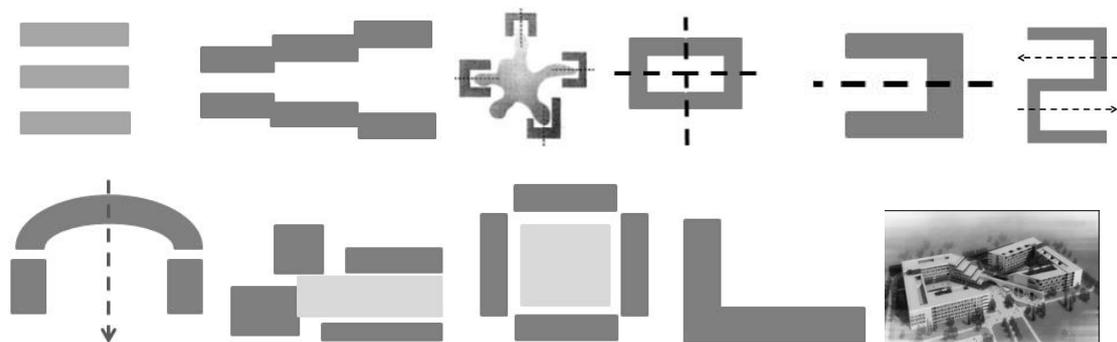


(2) 中心性を有する中庭

現代キャンパスの中庭の機能はほとんど生活のための領域であり、教学楼と公共建築から囲んで構成した面積が大きい庭である。

多元化の中庭形式：

- a. 行列式の平行構造で庭が形成されない。 b. 不規則或は自由形式の開放式の庭、中心性が無い。 c. 中心性の規則形、四合院と三合院。 d. 中心性の新形式の庭。



(3) キャンパスの形態枠:点、軸、核、区

A. 中心点

現代大学の中心点表現は記念碑の設立、塔、彫刻や噴水。



天津大学キャンパスの中心噴水

上海交通大学の記念碑

中山大学の孙中山彫像

B. 中心軸

現代大学キャンパスは以前の厳格な対称軸線だけじゃなく、曲線的、開放的、景観化の形式である。地形の特徴で形成した自然地軸線であり、建築師が設計した人工軸線である。

軸の中心性	形式軸：一般的には大きな幅で鮮明な勢いを表すと同時に、伝統文化中の礼儀と等級を表現する
	交通軸：校門と接続でキャンパス内外の主要交通道路
	機能軸：主要機能の建築は一つの軸線上に配列した機能軸
	対称軸：軸線に沿い両辺の形態が対称
	景観軸：現代の大学は最もよく使われるのが広場、水、緑、回廊などの景観要素で構成する
軸の形態分類	1) 単中心軸は一つの明確の中軸線から導くことでキャンパス構成する、制御や拡張が簡単で、キャンパス内部空間の秩序も明確。
	2) 多軸線（十字型又は T 字型中心軸）一般的に主入口及び中心建築で位置付けの景観の主の形式軸ともう一つの公共施設を中心に交差した交通軸。

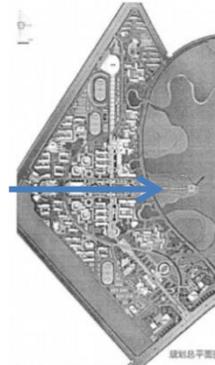
1) 単中心軸の例



天津大学仁愛学院
入口広場から導いたキャンパス形態で単一の中心性軸線になる。



中山大学珠海キャンパス
図書館、教学棟、本部棟で一つの建築の実体軸線が構成されキャンパスの単中心軸になる。



安徽大学新校区
構成軸線と空間軸線の重ねることによって単一の中心軸線が構成、キャンパスは中軸線に沿い対称。



浙江财经大学東北学院

校門から中心広場まで広い単軸線は中心軸として



天津大学

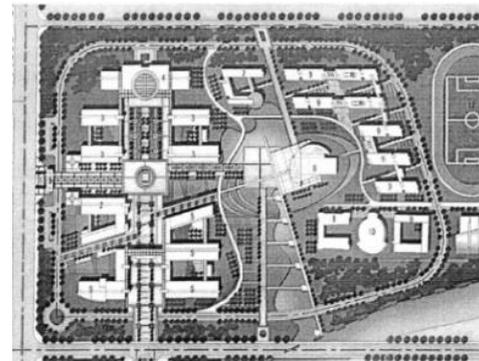
校門から広場と湖を通し建築館までの東西向き軸線は中心性がある軸線である

2) 多軸線の例



河南交通職業技術学院

南北向きのキャンパス構成軸と東西向きの都市道路交通軸線との垂直に交わる十字形軸線を形成した。



湖北大学職業技術学院

正門入口から南北と東西向きの交通軸線は十字形軸線を形成した。南北軸に沿って左右対称で建築群を配置した。軸線幅が巨大、形式軸でもあり、軸に沿って景観を配置するので、景観軸でもある。



安徽亳州学院

二つの交通主軸で垂直に交わって、キャンパスの十字形中心軸になる



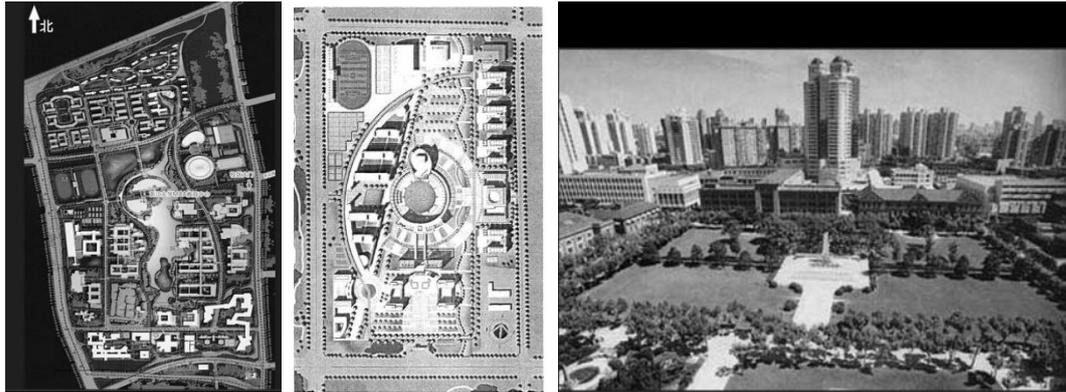
河北科技大学

十字形中心軸は空間軸、景観軸と構成軸でもある

C. 中心核

キャンパス形態構成要素『核』の求心性。空間の意向は厳肅、厳格、制御性から親和性、心地よさへと変化した。キャンパス中心核の精神的意義は権力的、礼儀的中心から、学術と情報の交流へ変化していった。

改革開放の後、キャンパス中心核は景観の環境あるいは広場の空間が際立っている、尺度がわりに大きい。四角形、円形とアーチ形などの多様な形態がある。



浙江大学新キャンパス

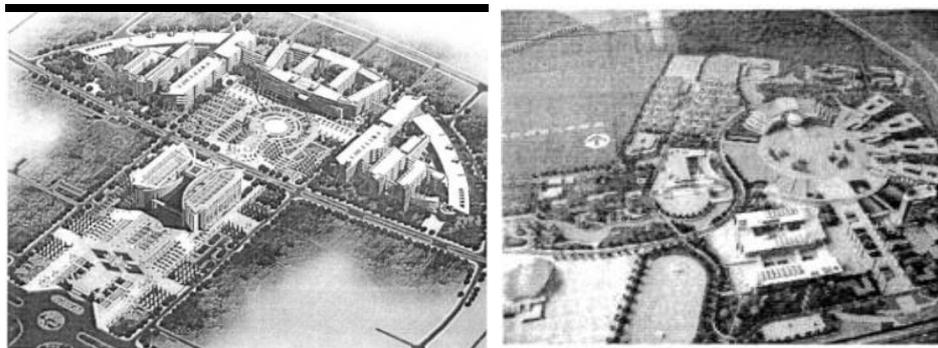
中央の水体が中心核として

慧仿医専新キャンパス

中心広場が中心核として

上海交通大学徐家匯キャンパス

キャンパス中心の緑地が中心核として



郑州大学 中心広場

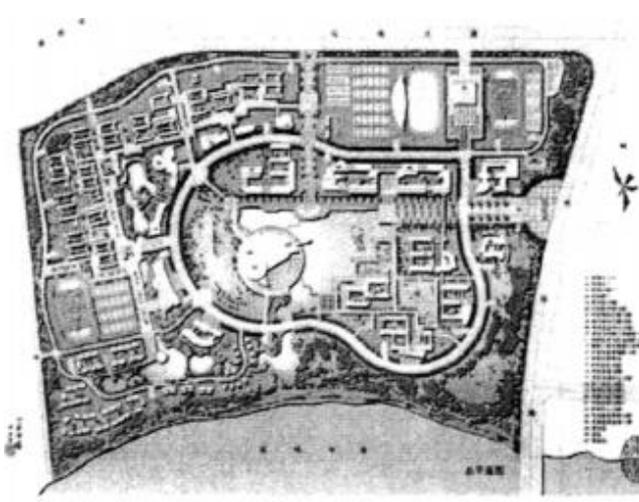
南京财经大学 中心広場

D. 中心区

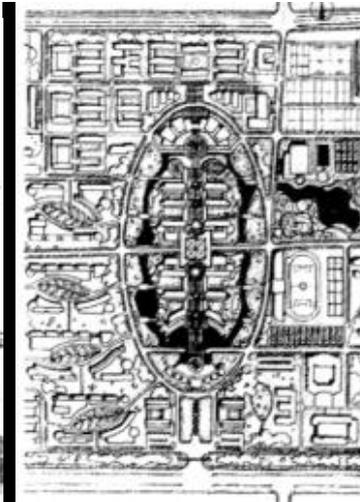
中心区は、機能複雑で多様な建築群と交通線及び景観環境で構成した大面積の中心区域でキャンパスにおいては重要な位置である。現代大学キャンパスの中心区は形態多様で、単一中心区又はいくつかの中心区、円形、方形、或は不規則の形態の中心区など。機能性、芸術性、交通と交流性などの作用を持つ。



安徽建工学院新キャンパス 中央広場の中心に噴水



华南科技学院



山东理工大学西校区

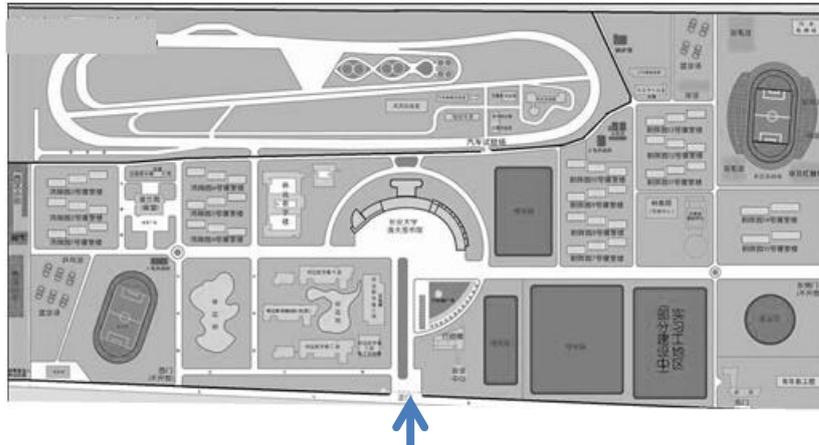


上海交通大学闵行校区



合肥工业大学翡翠湖校区 二つ中心

2.6.8 対象作品の中心構成分析 A 長安大学 渭水キャンパス



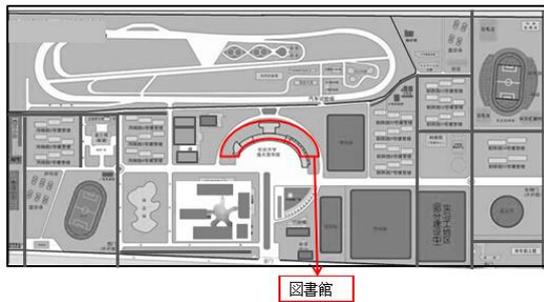
時間	2003 年
位置	西安
面積	1111889 m ²



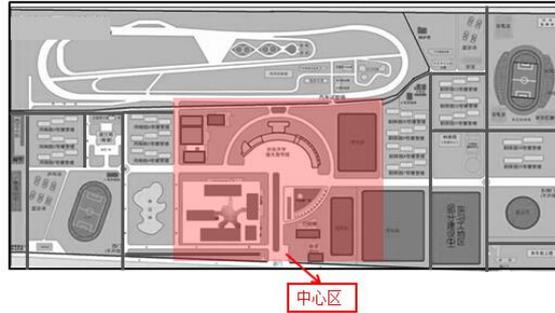
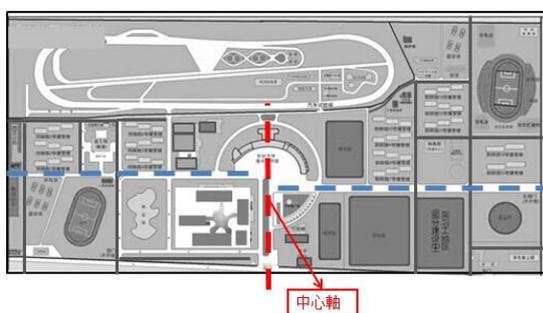
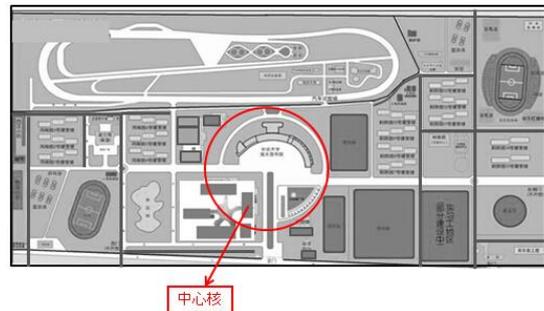
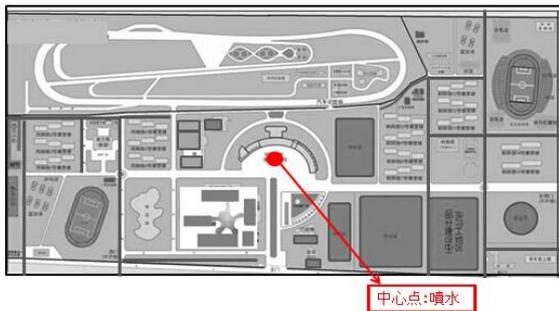
西安の位置

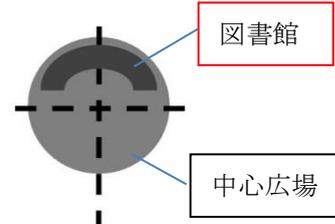
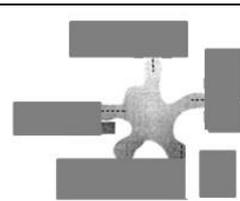
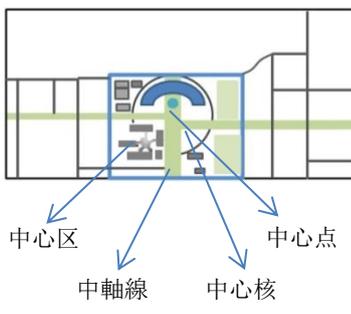
図の出典 : <http://www.xahu.edu.cn/>

分析図



写真：中心広場と図書館



中心的構成の分析			形態分析
建 築	機 能	公共資源の中心である図書館はキャンパスの中心建築	 <p>図書館</p> <p>中心広場</p>
	位 置	キャンパス中心円広場と中心主軸の端	
	体 積	現代高層建築、体積巨大、12階、面積 45000 m ²	
	形 態	現代建築、中軸線にそい左右対称の弧状形の形式	
中 庭	機 能	主要な教学楼	 <p>開放的の三辺で中庭を囲む</p>
	位 置	中軸線西側中	
	体 積	現代の4階から5階の建築群、体積は目立たない	
	形 態	何軒かの建築で囲んで開放式の中庭を形成	
キ ャ ン パ ス 形 態 枠	点	図書館前の円形噴水	 <p>中心区</p> <p>中心点</p> <p>中軸線</p> <p>中心核</p>
	軸	正門からの巨大の南北向きの中軸線から中心広場と中心建築を通す。中軸線は形式軸、交通軸と景観軸の作用	
	核	中軸線に沿い対称の円形広場と緑地景観で中心核になる。	
	区	方形環路で囲む図書館、教学楼、行政楼及び中心広場と景観で中心区を形成	
中心性の表現：建築、中心点、中心軸、中心核、中心区			

総結

- 1) キャンパスの中心に、広場と図書館をセットにして持つものである。
- 2) 開放的な円形広場の中心は噴水で、大衆が集まって休憩したり散歩できる空間である。
- 3) 重要機能の建築群はこの広場の周囲に囲まれて、一つの方形のような中心区空間を形成している。

対象作品の中心構成分析 B 東南大学 九龍湖新キャンパス



時間	2006年
位置	南京
面積	2467000 m ²



図の出典：<http://www.seu.edu.cn/>

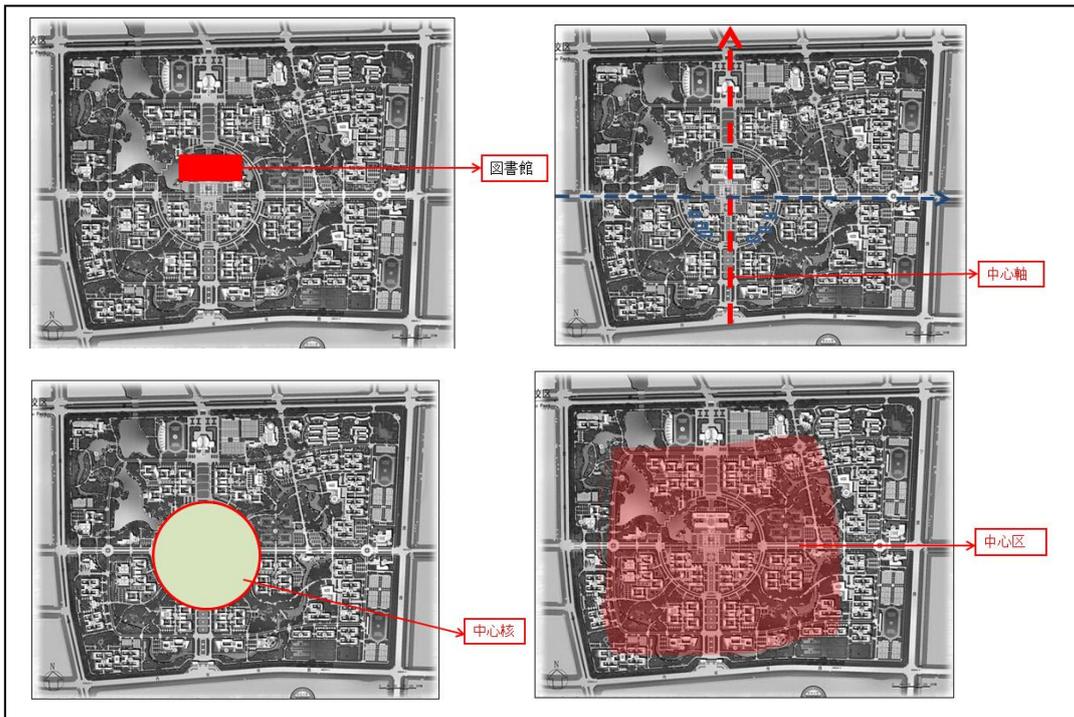


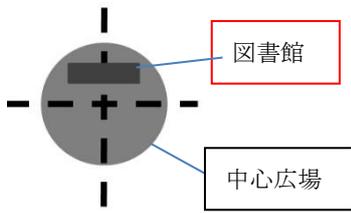
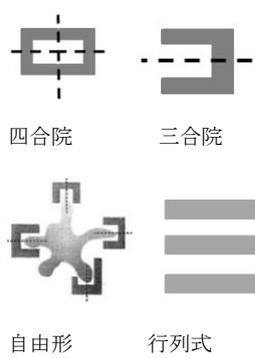
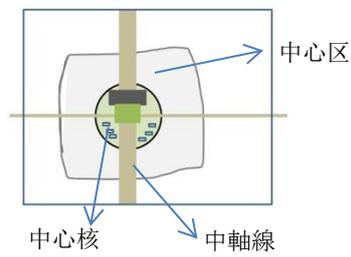
入口正門の中軸線



中心建築：図書館

図の出典：史曉川、『青春印象—東南大学九龍湖校区大学生生活設計』2011年



中心的構成の分析		形態分析	
建築	機能	キャンパス表徴性建築である図書館は公共資源の中心としている、周りは他の公共教学楼で囲まれ、公共教学区に形成。	
	位置	キャンパスの中心円広場とキャンパスの中心主軸上	
	体積	現代多層建築、体積巨大、面積は 53828 m ²	
	形態	伝統三段式の建築模式、南北と東西方向対称的である	
中庭	機能	教学楼、宿舍、生活など多種機能	
	位置	各自のグループ中	
	体積	現代多層建築、体積の大きさは同じ	
	形態	四合院、三合院、自由式と並列式等多種形式共存	
キャンパス形態	点		
	軸	正門から図書館まで南北軸線で主軸線の長さは 700 メートル、東西向きの次軸線と交わって十字軸となり。中軸線は対称軸、形式軸、交通軸と景観軸の作用を持つ。	
	核	十字軸の交点をとした円形の広場と緑地が景観に中心核になる	
区	キャンパス内の環形道路で囲まれ、図書館を中心した公共教学資源区でキャンパスの中心区になる		
中心性の表現： 建築、中心軸、中心核、中心区			

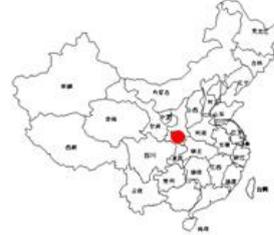
総結

- 1) 中心に広場と図書館をセットにして持つものである。
- 2) 広場は十字軸線の中心位置にあり、主要機能の建築群は広場の周囲に置かれている。

対象作品の中心構成分析 C 西北工業大学新キャンパス



時間	2005 年
位置	西安
面積	2600000 m ²

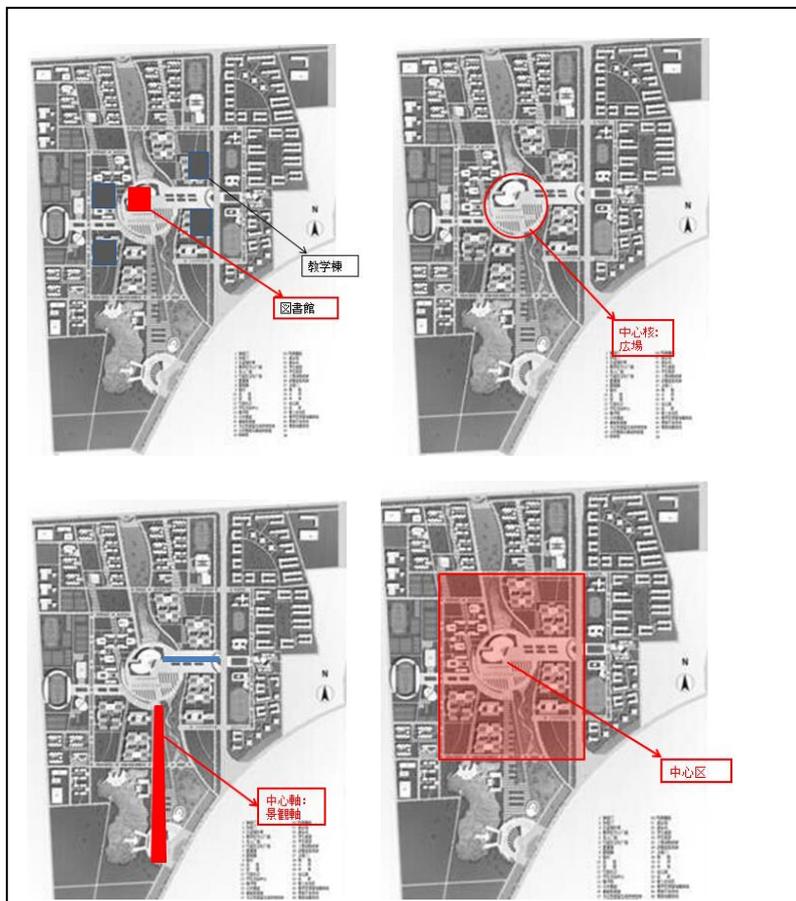


地図: 西安の位置

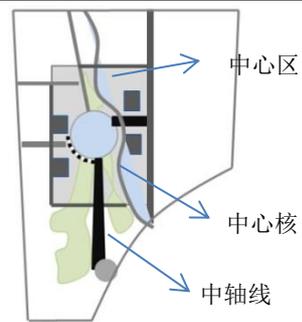
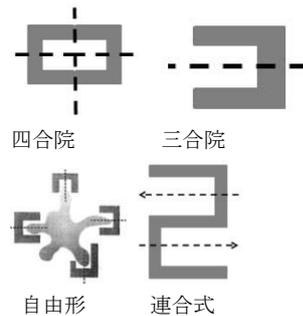
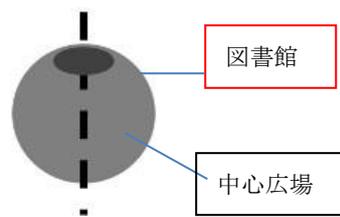


写真図書館と中心広場

出典: <http://www.nwpu.edu.cn/>



中心的構成の分析		形態分析
建築	機能	公共資源の中心とした図書館はキャンパスの中心建築である、他の公共教学楼で囲む広場の周囲に配置
	位置	キャンパスの中心円広場とキャンパスの中心主軸上
	体積	現代多層建築、体積が相対的に目立つ
	形態	現代建築形式
中庭	機能	教学楼， 宿舍と食堂多種機能
	位置	中心広場の周り
	体積	現代多層建築、体積大小は同じ
	形態	四合院， 三合院， 自由式と連合式等多種形式並列
キャンパス形態枠	点	
	軸	キャンパスの入口から延伸の図書館の南北向き軸線で主要軸線、形式軸、交通軸と景観軸の作用
	核	円形の広場と緑地景観で中心核になる
	区	方形の交通システムで囲むの公共教育区と景観はキャンパスの中心区になる
中心性の表現：建築、中心軸、中心核、中心区		



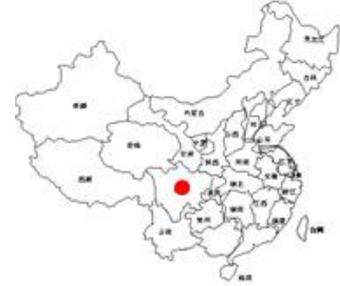
総結

中心に広場と図書館をセットにして持つものである。しかし、図書館は中心軸上からずらされている。

対象作品の中心構成分析 D 四川工商学院 眉山キャンパス



時間	2014 年
位置	成都
面積	867100 m ²

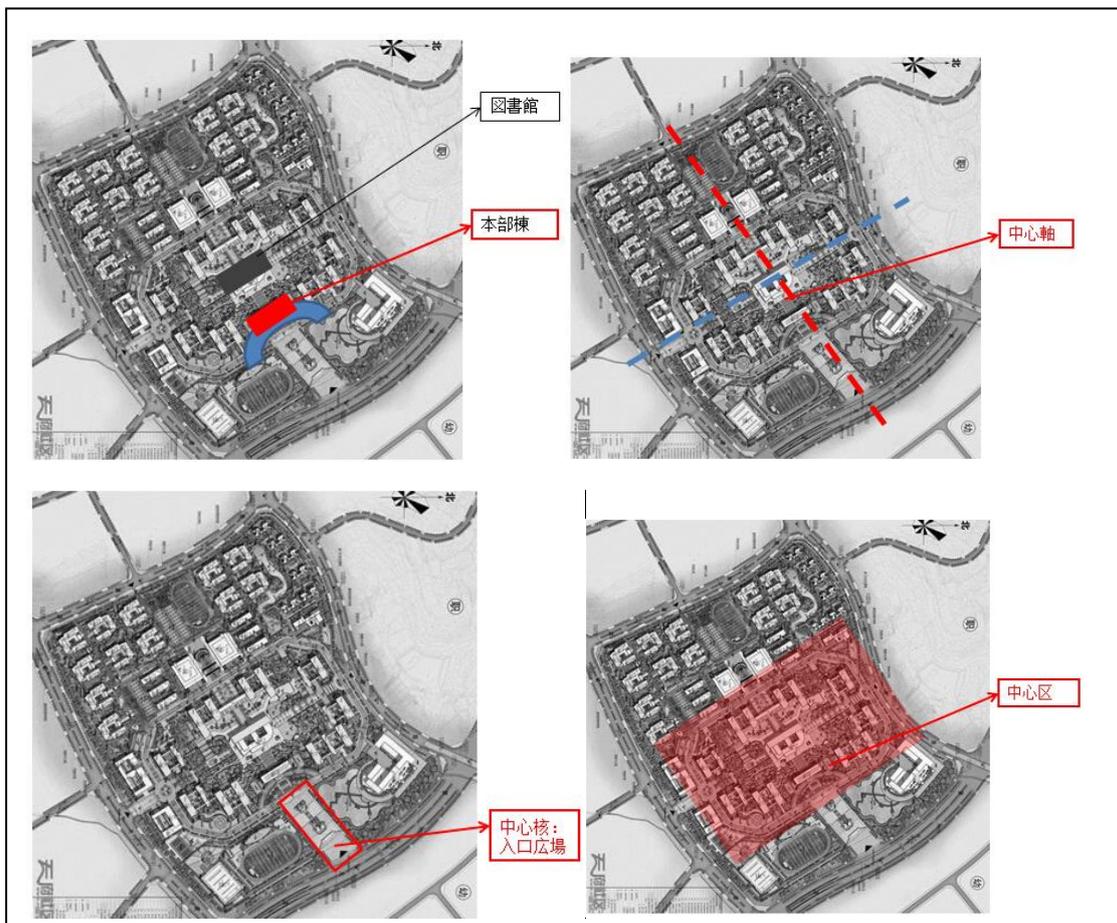


地図：成都の位置

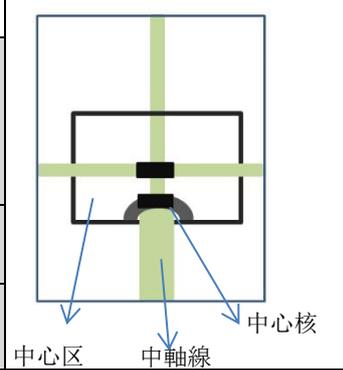
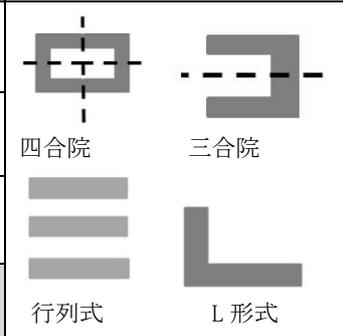
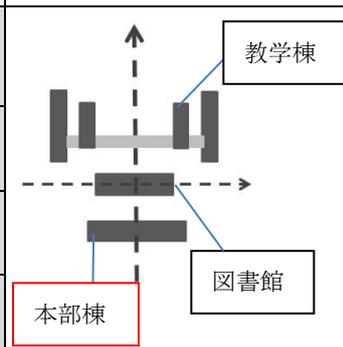


本部棟

図の出典：http://www.cdxy.edu.cn/



中心構の分析		形態分析
建築	機能	行政楼はキャンパスの主要建築として、図書館と他の教学棟に沿って中軸線は後ろに配列
	位置	キャンパス入口広場中心と中軸線上の第一軒建築。地勢の差のため、行政楼は高点で広場を制御する。
	体積	現代高層建築、体積巨大、面積は 19795 m ²
	形態	現代建築、中軸線に沿って左右対称の形式
中庭	機能	教学楼、宿舍、体育館と生活多種機能
	位置	軸線両側
	体積	現代多層建築、体積大小は同じ
	形態	四合院、三合院、L形式和行列式等多種形式共存
キャンパス	点	
	軸	キャンパス入口から行政楼を通し、東西軸線を主軸線で幅60メートル、及び南北向きの次軸線で交わる十字軸を形成。中軸線は対称軸、形式軸、交通軸と景觀軸の作用
	核	入口広場と高大の行政楼で中心核を形成
	区	図書館を十字軸交点とした環形道路、囲んでいる公共教育資源区でキャンパスの中心区になる
中心性の表現：建築、中心軸、中心核、中心区		



総結

中心に本部棟である、強い軸線を持っていて背後に図書館がある。

2.6.9 影響要因及び結論

中国現代の大学キャンパスの形態の多元化のため、中心的構成も差異がある。本文の四箇の例の中、すべて中心建築である（大部分は図書館を主建築としている。中庭の形式も多様化で、中心的構成にはならない。キャンパス形態枠は景觀化の中心軸と中心核又は中心区構成。影響要因国家が大学に出した政策、大学の経済収入、大学の管理制度、設計師と指導者、伝統文化と西方文化の影響、キャンパスの周囲環境、この六つの方面である。

2.6.10 現在新キャンパスの中心的構成に影響する要素と特徴

当代中国の高等教育は隆盛期であり、投資体制や管理体制や学生の構成と社会背景も重大な変化が発生している。快速に新キャンパスの建設の時期背景で、キャンパスの形態もその時代の特徴を有している。

中心的構成に影響する要素

(1) 政策

a. 教育政策：1993年から国家政府が『中国教育改革と発展綱要』及び『綱要実施意見』を發布してから十年間、高等教育の拡張、多くの人々が教育の権利を受けることができた。大学の建学理念はエリート主義から大衆主義へ変わったため、学生の人数は突然増加し、学校の規模も拡大、新キャンパスの建設も需要が多い。しかし、キャンパス建設の発展方向は総合化、大規模発展などが原因で、規模が大きすぎる問題が発生してしまった。

b. キャンパスの土地優遇政策：1997年後、中央集権管理の国立大学に対して、規模制限を撤廃し、政策上もサポートしたため、大学の数は迅速に増加し、建物面積も増加している。大学の所在地にはその地域に人の集散でき、土地の価値も上げ、都市の快速発展や企業の発展にも有利である。地方政府は大学に優遇政策を与え、新キャンパスの建設を促進している。

(2) 経済

a. 大学の経済収入：改革開放後、中国の経済は快速発展である。1997年後中国大学前面的に学費改革を実施し、学校の収入は両方面で、1、自主経営と政府からの支援。収益を増加させるため、学生募集人数を増加、キャンパスの規模も拡大された。それでも政府に依頼やサポートや土地優遇などが必要であるため、重大の決定や施策は政府に依頼している。

b. 大学建造：快速運営と学生募集で大学の収入を増加するため、キャンパスの企画と建造は短時間で追及され、キャンパス企画設計を募集してから、単体設計を深く入り、2～3期で機能の重要性により建設を完成させる。第一期学生の宿舎、教学、食事などのことを主に解決する。第二期は機能の追加である、例えば、景観、体育、文化交流方面など。第三期では商業など生活と関係する施設の建設である。

面積が80万平方メートルから100万平方メートルの新キャンパスは、企画から第一期の建造完了、それに学生の入学し授業を行うまでは、大体、一年間がかかる。こんな素早い速度で、大学のキャンパス形態と環境は細かさが欠けている。

(3) 大学の管理制度

- a. 学院化管理：学科と専門別で区域と建築を分け、各自で各学院事務を管理する。
- b. 集約化管理では専門など分けない、教育資源を集中化する、学校から統一管理する。例えば、学校の蔵書は全部図書館に置き、教室の設備も統一で、使用には課程と専門を分けない。不明確の機能用途と使用不便があるが、中国現代大部分キャンパスの管理方式である。総合性の大学を建設するため、多くの大学はいくつかの所在地が違う旧キャンパスと合併して新大学になり、規模が拡大後、新のキャンパスは『和』の概念を体現する、運用集中管理の方式、これもキャンパス形態中心的構成を形成する重要な要素である。

(4) 人

- a. 建築設計師：西方建築モデルの建築思想と伝統文化の影響を受け、設計手法と機能分区、キャンパスの単体建築は現代の建築形式を使用で、キャンパス全体では伝統分化と伝統建築を考慮し配置する傾向である。
- b. 大学の指導者：部分の大学キャンパス指導者は行政級別を持ち、政府と大学の管理には密接の関係がある。
- c. 現地の政府職員：大学キャンパスの建設することでその地域の経済発展も有利で、政府の望みでもある。雄大なキャンパスの形態を通じて現地の都市のイメージを代表することができる。

(5) 文化

- a. 外国文化：文化の断層と閉鎖の文化大革命が経過した、改革開放後において、中国は外国の文化を積極的に受けた。たくさんの学生が海外へ留学した。建築においては外国の現代建築思想と技術を学習する。
- b. 伝統文化：根強く、文化大革命が伝統の文化に対する破壊をしばしば経験したが、しかし伝統文化は建築、思想および人の生活行為の影響に対して依然として根強い。

(6) 環境

- a. キャンパスとその周囲の都市環境
多く新建設のキャンパスは都市部と離れている地方で、キャンパス外部の生活施設不全である

ため、学校内部機能の複雑、施設完備、教学機能以外でも衣食住行などが充実している。キャンパスと都市の間は明確の区別があり、都市と融合難しく、都市としてキャンパスは機能完備の独立の社会体、社会性、共有性、開放性が少ない。

b. キャンパス内部の環境

キャンパスにとっては自然地形と自然環境の結合と利用が欠ける、大部分は人工で環境作り、例え、人工湖、芝生、広場など、設計手法が似ているため、キャンパス環境が自身の特徴と人文精神は欠ける。

当代キャンパス形態は政治的、経済的、社会的など背景の産物である。中心的構成は集中的にキャンパス形態を体現する最も明らかな表現形式である。以上六個の背景の影響で、当代最典型的の中心的構成の四個の特徴である、中心景観化、尺度巨型化、速成下の粗末化、無差別化などがある。

現在新キャンパスの中心的構成の特徴

(1) 中心的構成は景観化

当代中心的構成の重点はキャンパス形態枠部分の表現である、中心広場と緑地、水体など人工景観で中心軸線、または区域を形成する。キャンパスの全体景観の特徴を反映している、人々の集散や各種活動などに集中性的がある交流と休憩スペースを提供する。中国伝統文化『天人合一』が建築に与える影響：建築と自然景観の結合。早期の伝統書院は山森などに建てられているが、現代では都市化の建設中、キャンパス中の自然景観が人工景観に変わり、広場や水面、芝生などがある。



A 浙江大学新キャンパス

中央にある水体はキャンパスの中心景観である。



B 上海交通大学闵行キャンパス

中心景観の組成は中心緑地、大面積の水面、人工山、飛鷹彫刻などから中心を構成する。

(2) 尺度巨型化：

当代新キャンパス規模を増大するため、一般的に用地は 100-200 h m で、学生数は数万人、キャンパス内部の機能は複雑である。多くの新キャンパス建設時はひとつかまたはいくつかの中心空間を作り、キャンパス全体の構造枠を統裁する、明らかな識別製と表徴性空間があればこそ、巨大のキャンパスにおいて混乱感をなくすことができる。中心的構成は低密度の居型化空間へ傾向がある、構築物と空間は拡大され、大噴水、大芝生、大緑地、大道路、大広場などとなる。機能分区は明確、秩序があり、雄大な勢いもあるが、人間の尺度と空間感覚を見落としている。



浙江财经大学东方学院

巨大的な中心軸



曲靖师范学院の中心広場

巨大的な広場

これら巨型化の中心空間の欠点：

- a) キャンパスの面積が大きすぎ、中心の輻射能力が限られている、学生や先生の分布地から中心区との距離が遠い、歩行をメインとする学生たちの学習生活に不便である。
- b) 完全の開放性空間のため、プライバシー的な交流空間を提供できない。
- c) キャンパス中心的の面積が大きいため、詳細な設計が重視されておらず、芸術がなく、キャンパス空間が固いイメージである。
- d) 積載の内容が多すぎて、機能が雑であるため、親近感と帰属感の養成に不利である。また、使用の混乱と局部の交通が不便である。
- e) 金と土地の浪費

(3) 速成下の粗末化：

短い期間の建設周期と大規模の要求は矛盾である、この矛盾下で建設してきた大学は粗末で、簡易である。

特徴：a. 建造時間が短い、建設質は低い、キャンパス企画が入念ではない。

b. 面積が大きい、細部と芸術に不足する、空間感と文化が不足している。

c. 新キャンパスであるため、大部分の木や緑化があまりないし、遮蔽物が少ないし、完備の公共施設が整っていないし、および人の目を集める景色がない。巨大な形を持って視覚面で氣勢を与え、精神上的の感染力がない。



成都理工大学工程技術学院



沈阳師範大学

(広い中心広場は寂しい感じがあるとおもいます。)

(4) 無差別化：

以上三つの原因で、中国近年の大学キャンパス企画方案を比較し、現代大学のキャンパス企画が分布は類似である。キャンパス中心広場に緑地又は水面、明確な機能分区、人と車の道が分けの道路システムおよび大きいな建築と空間尺度。キャンパスがどこにあっても、キャンパスの地形特徴はなにか、キャンパスの教学特徴とかなにか、これらの差異が見えない。キャンパス建造のテンプレートの通りに建て、差異などをなくし、量産と快速生産することで、キャンパスの文化精神や地域特徴が消えている。



南京中医薬大学



山東大学



東南大学九龍湖キャンパス

2.7 近現代中国の大学における中心的構成の時間的変遷について6事例を題材として分析する

2.7.1 分析方法

近現代中国大学の中心的構成の発展を基に時間軸を作る、六個の典型的な例の作品で形態学的分析、比較を行い、キャンパス形態の変化に起きる特徴を探し出す。これらの特徴を比較することを通じて結論を得る。更にその特徴と各歴史時期の社会背景との関連付けを見つけ出す。

表 2.7.4 は、以下のような構成で示している。横軸：各時期との比較しながら観察する、各作品につき中心性の表現と中心的構成の変遷を分析する。縦軸：同一時期キャンパスにおいて中心的構成（建築、中庭、キャンパス形態構造）を分析し、結論を得る、中心的構成を影響する要因を探し出す。

2.7.2 討論

1. 横：中心的構成は時間的変遷

1) 中心性がある建築

建築の機能：最初の書院講堂から中西結合時期のホールに変わり、民国時期の本部棟、建国初期の教学棟、文化大革命時期の多種機能が混合した主要建物、及び改革解放後の図書館、時期 1 と 4 相同、小点で表す。機能が違った主要建築からキャンパスにおいては当時の社会価値の傾きの変化が見つかる。当代大学の知識や情報交流に重視し、図書館が中心的な建築になっている。

建築位置：時期 1 と 3 相同、中軸線及びキャンパスの中心位置に置き。

建築体積：時間とともに増える傾向である、主に時期 4、主要建築の体積が巨大で、都市の象徴性建築も言える。

建築形態：各時期はそれぞれ違い、書院の伝統形式と民国時期の宮殿形式は比較的似ている所がある。表 2.7.4 から見ると、主要建築は歴史のどんな時期でも特殊な地位である、中心性を表現している。時期 5 は文化大革命時期で、新キャンパスの建設がないため、キャンパスの主要建築は時期 4 の建築のまま、この時期の建築は中心性が弱まっている。

2) 中心性がある中庭

伝統書院の中庭だけ中心性があり、キャンパスの中心に位置し、体積が最大、人の集散や重大なイベントの中心地である。ほかの時期の中庭は分散配置であり、機能性が普通、大半は形式的に対称を表現している。例えば四合院と三合院は中心性を持っていない。特に時期5では、建築群の平行配置又は任意に配置のため、中庭に構成していない。

3) 中心性があるキャンパスの形態枠

a 中心点：時期4に至るまで中心性がない。時期4において、毛沢東に個人崇拜のため、毛沢東の立像を各大学の中心位置に設置していた。

b 中心軸：中心軸は中心性を表現する常用方式である、含まれる特徴は、対称性、交通性、礼儀性、形式性、景観性などがあり、時期1と時期3は相同で、小点で表示する。しかし、時期5では、文化教育の停滞したため、キャンパスの無企画や任意建設したため、元の主要軸線が細くなって、普通道路に変化、中心軸が消えてしまった。

c 中心核：時期2に現れ、広場と緑地を通じて表現している。時期5では当時の実用主義の流行で学校と工場合併建設していた、多くの広場は畑や工場用地に占用され、中心核が消える。

d 中心区：利用率が最高の中心区域で、組成は主要建築群、景観、道路で形成する、同様に、時期5で、中心区が消える。

2. 縦：六個の作品にそれぞれ中心的構成

中心的構成	1	2	3	4	5	6
建築	●	●	●	●	●	●
中庭	●					
キャンパス形態枠	●	●	●	●	●	●

この六個の作品の中では、中心的構成は建築とキャンパス形態枠がメインである、中庭の場合は時期1だけに構成要素の表現である。建築と中庭に関しては、もし形態上だけ中心性があると、複雑で巨大なキャンパス中の中心性建築になることはできない。建築と中庭の機能、位置、及び体積はこれらが重要な要素である。キャンパス形態構造においては、一つだけの中心性を有する建築があればいい。例えば時期5では、文化大革命時代にキャンパスの建設は混乱的で、無秩序的であるが、毛主席の彫像は識別性と標識性の地点で、キャンパスの中心に人々の集散な場所である。

3. 総合：中心的構成の変遷と歴史背景的との相関性

a 無変化：1860-1911年 時期1

清朝の封建集権統治時期では中国伝統大学キャンパスは儒家文化と四合院建築形式の影響を受け、儒家思想は「居中為尊」で、意味は中心的な位置にいれば最高の等級を表している。中心性の重要性を表現する。

b 多元化変化：時期2と6

中央政府の統治は相対的に開放な時期である、外国の文化と建築思想を勉強する。違いは、時期2、軍閥混戦時期で、現地政府が大学を管理する、各地の大学キャンパス形態も違う。時期6、経済快速発展時期で、キャンパス形態は多元化へ発展。

c 転換点：時期3と4

この時期は中央政府の集権統治時期で、政策と法令に従いにキャンパス形態も変化が発生。すべては伝統建築形式を伝承した。違いでは、時期3の主要建築は宮殿形式を採用、時期4の主要建築はソ連形式を採用。しかし時期4の変化は特殊で、まず、社会主義初期で、政治、工業など各領域がソ連に対する崇拜と模倣、キャンパス建築もモスクー大学の形式に学習した。1957年にソ連との関係が破裂後、反省し、盲目的な模倣形式を否定した。

d 特別時期：時期5

文化大革命時期、伝統文化と外国文化を否定した。大学の教育が停滞し、新キャンパスの建設もない。旧キャンパス上の無企画で任意に建造を行い、中軸線もどんどん狭くなり、広場も占用され、中心性もどんどん弱まっていた。

2.7.3 結論：

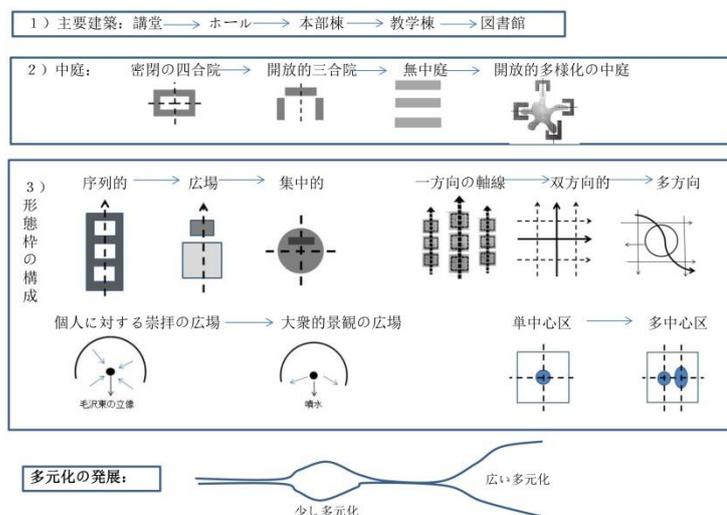


図 2-7-3 形態変遷の結論

中心に来る建物は、初めは講堂、それからホール、本部棟、教学棟などうつりかわり現在の主流は図書館です。中庭は、初め密閉の四合院型だったものが開放的三合院に変化し、現在の広場に変化しました。軸線構成は一方向の序列的なものから集中的、求心的なものに変わりました。

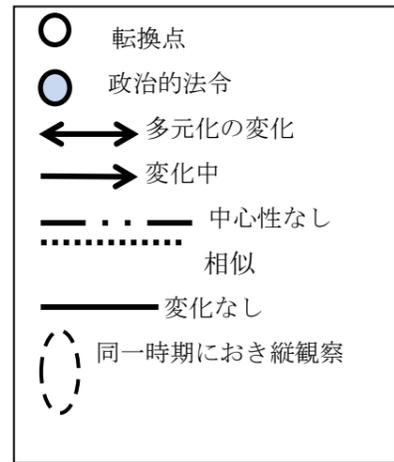
以上のことから、キャンパスの空間は単一的な秩序から、多元的な秩序へと変化した。

注：転換点の詳細解釈

年	事件、運動又は法令	結果或は影響
1860年	中国近現代史の始まり	アヘン戦争で中国の封建国の門を開けた
1905年	清朝は封建科挙の試験制度を廃除され	現代高等教育の始まりました
	『钦定合奏定学堂章程』	伝統キャンパスの改革と発展が芽生えました
1911年	封建王朝滅亡	民主革命時期に転換した
1922年	『新学制』	アメリカの大学院教育の体制を主として参考した
1927年	南京国民政府の成立	民主集中制と国家主義の実行した
	『私立学校条例』	中央集権統制の教育部を変えて設立した 中国の伝統建築形式を推進した
1937年	日中戦争	大学の発展速度を阻害した
1949年	中華人民共和国の成立	社会主義制度を確立した
	『高等学校課程の改革を実施に関するの決定』	ソ連の模式をもとに高等教育制度の基本的ものを確立した
1952年	社会主義の工業化活動を全面的に改造	
1957年	社会主義の改造が完成	大学は中央集権化を始めた
	ソ連との関係が破裂	ソ連模式大学キャンパス形式を用いなくなった
1966年	文化大革命の爆発	大学教育の停滞と荒廃した
	『教育革命綱領』	教育の集権と教師の世界観などの問題を解決に主張した
1971年	『关于高等院校的调整方案』	学校の数量と面積が削減され、農村に移行した。 清华大学の学校入口に毛主席の彫像を設置し始め、他の大学も模倣した
1977年	文化大革命の終了	清华大学の毛沢東の彫像の下げした
1978年	改革開放政策を実施	高校選考制度の回復、大学教育も回復と発展開始
1985年	『中共中央关于教育体制改革的决定』	欧米高校教育モードを主に、世界各国の大学の発展経験を参照
1993年	『中国教育改革と発展綱要』	大学の数は快速に増長
1999年	キャンパスの規模は三回連続で募集を拡大	大学はエリート教育から大衆化教育へ変化

表 2-7-4 中国の大学における中心的構成の時間的変遷について分析する

歴史 事件	1860	1905	1911	1922	1927	1937	1949	1952	1957	1966	1977	1978	1985
政治	半封建半植民地 政府の集権的に統治と管理	民主革命と軍閥戦争 所在地の政府	南京国民政府成立 中央集中制統治	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争	戦争
文化	儒家思想	传统文化と外国文化	传统文化復興	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦	ソビエト連邦
分析 対象	1 Yue Lu college (岳麓書院)	2 Hua Xi Xie He University (華西協和大学)	3 Sichuan University (四川大学)	4 Xi'an Jiao tong University (西安交通大学)	5 Tsinghua University (清華大学)	6 Chang'an university (長安大学 渭水キャンパス)							
キャン パスの 平面配 置図													
建 築													
	講堂(教学棟)	ホール	本部棟	教学棟	多種機能	図書館							
	中軸線とキャンパスの中心	主要道路と機能軸線上	中軸線と校園の中心位置	中軸線と広場の前	入口正門主要道路上	中心円広場とキャンパスの中軸線上							
	単層建築、面積最大、高さ最高	多層建築、体積は他より大きい	多層建築、体積は他より大きい	体積巨大、表徴性建築	体積削減、他の建築より依然に大きい	高層建築、体積巨大、他の建築より大きい							
形態	伝統建築形式	西洋式建築体に中式屋根に加え	伝統宮殿式建築形態	ソビエト連邦建築形態	平面で工字型建築形態	現代主義形態、対称的の建築形式							
中庭													
	伝統四合院形態、中軸線に沿って対称、キャンパスの中心	三合院形態、幾つ無規則配置、中心性なし	四合院と三合院形態、中心性がない	四辺囲む中庭、キャンパス中心性がない	並列平行建築で中庭に形成してない	自由的開放的の多元化の中庭							
	西洋式由来の影像	同1時期	同1時期	同1時期	同1時期	同1時期							
	中心軸：対称性+礼制性+機能性	対称性+交通性	同1時期	機能性+対称性+形式性+交通性	無中心軸線	景観性+交通性+形式性							
形 態													
	中心軸：対称性+礼制性+機能性	対称性+交通性	同1時期	機能性+対称性+形式性+交通性	無中心軸線	景観性+交通性+形式性							
	主軸線上の広場	主要建築前の広場	主要建築前の広場	入口広場	無中心核	円形の中心広場と緑地							
	キャンパス中心長方形の区域を中心区とする	キャンパス入口主要道路入口広場と建築で中心区構成	キャンパス入口主要道路入口広場と建築で中心区構成	キャンパス入口主要道路入口広場と建築で中心区構成	無中心区	方形環路囲む中心広場、図書館、教学棟和本部棟で中心区構成							
結 論 変遷原因	伝統文化、封建王朝の集権統制下の法令	戦争、外国文化と伝統文化	伝統文化の復興、中央政府集権下の法令	ソ連文化と伝統文化、中央政府集権下の法令	文化運動、無政府状態下の停滞	改革政策、多元化の文化、経済快速增长							



第三章 大学の現地調査と院長に対するインタビュー取材

前の分析した事例のうち2つの大学の現地調査を行うとともに、大学の院長にキャンパス形態の中心的構成に関する考えなどについて聴取した。

この二つの大学を選定し、インタビューする理由は以下四つである。

1. 私はキャンパスの配置は十分知り、私が学習と生活していた大学である。
2. 大学によって性質が違う、Aは私立大学、Bは国立大学である。
3. インタビュー対象の違い専門特性：Aは実際の管理とキャンパス建設の人です、Bは建築学専門の人です。
4. キャンパス形態の違い、中心的構成も違う。

3.1 四川工商学院の眉山新校舎

3.1.1 キャンパスの背景と配置図を調査：

(1) 地理位置：四川省眉山市岷东新区の四川工商学院



キャンパス所在の都市：成都

眉山新校舎

(2) 四川工商学院新キャンパスの平面配置図



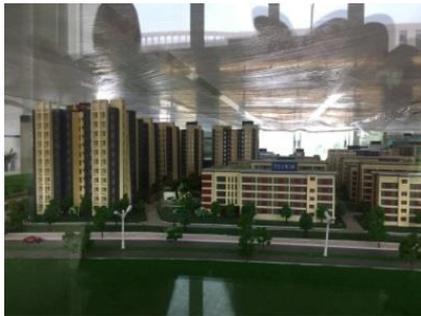
出典：<http://www.cdxy.edu.cn/>



筆者撮影：図書館



筆者撮影：入口広場



模型の写真：教師と学生の宿舎



模型の写真：入口広場と本部棟



模型の写真：対称配置の教学棟



模型の写真：三合院の学生の宿舎

(3) 四川工商学院新キャンパスの建設背景：

敷地面積：1300 ム²=867100 平方メートル，東南西北の長さ

建造時間：2013年5月—2014年9月第一期工程

2015年第二期工程

私立大学は自主募集と個人投資建設、経済の面では学校が自己負担する。新キャンパスは2.5万人の学生が入れる。都市と離れている地域に在るため、キャンパスの周囲は商業や住宅区域などが無い。キャンパスの基礎施設が完備、教学区、食堂、運動場以外に国際交流芸術館、学術報告楼、大学生活動館、研究楼、教師クラブ、教師や学生の宿舎もある。キャン

パス内部の機能は学生や先生たちの生活と学習環境を満たしている。

(4) 中心的構成：

中心性建築：高大の行政楼、12階、19795平方メートル。

中心軸：入口広場の軸線幅は60メートル

中心核：入口広場と高大の行政楼で中心核を形成

中心区：入口広場と主要公共建築群及び環形道路システムで長方形の中心区を構成している。

東西向きの主軸と中心区を通した南北向き軸線と交わって、中心区の建築は軸線沿いに配置。

学生や教師の宿舍生活区は三合院の建築形式で配列する。

3.1.2 主任に対するインタビュー取材

1. 劉永江主任への聞き取り

時間：2015年4月24日午後3時から4時半まで

場所：成都工商学院のキャンパス建設の主任オフィス

内容：

謝：学校まだ大面積に建設しているが、もう学生の授業がはじまったのですか、キャンパスの建設について教えていただきたいです。

劉：キャンパス面積は大きい、主要的に二期の工程で建設する、第一期工程は企画から完工までは一年ぐらいの時間で、第一期工程は主に学生と先生たちに基礎の教学と生活施設を提供する。第二期は第一期の上でさらに機能と公共建築などを加え、及び体育施設などを改善する。

劉永江

1957年生まれ

四川工商学院眉山
キャンパスの総合
事務室の副主任で
す、及び眉山キャン
パス建設の主任
で、キャンパスの
建設の仕事をして
いる。



筆者撮影：建設中のキャンパス



ネットから：学生宿舍

謝：一ヶ月の時間でこんな巨大の規模のキャンパス設計で、一年間で第一期建設を完工する、こんな快速の設計と建設の考えは何ですか。

劉：土地政策はキャンパスの一次性企画と申請、そうしないとキャンパス建設の土地がもらえない。現在の在校生数は5000人で、教学建築と施設はもう17000人の使用できる、C区とD区の教学楼は建設の必要がないが、建てないと空きの土地は政府から回収され、大学の建設は政府の支援やサポートを受けるが、政府の制御や要求にも従わないといけない。

経済と教育の角度から、私立大学においては自己経営による収入を作り、短期間で大量の学生を育成する必要がある。だから学校は短期間で建設を完成しないといけない。これも大学の発展速度が速いと言える。

謝：新キャンパス形態の配置理念はどの角度から考えたんですか

劉：1) 地形設計条件と中国伝統建築文化である風水学とつながっている。地形は長方形で、地勢は不平らの丘陵、西高東低。風水学の配置方式に従い、後ろは山、前は水、ですから入口と広場は東面に置き。風水学の左青龍、右は白虎の配置に満たすため、広場の南は元々大きな穴があり、埋めて運動場を作り。北方面は元々山で、掘って人工湖を作り、たくさんの金と時間がかかった、これらの目的は伝統文化の風水文化に従うためです。

2) 機能分区の角度から見ると、入口はキャンパスの表徴ですので、管理と外部と野交流の役割です、行政楼の機能は管理で、左右両辺の運動場と件管区の機能は休憩や交流の場所です。公共教学建築区は資源の利用便利させるため中心区に設置。中心区以外は生活と宿舎です。これはキャンパスの企画です。

謝：中軸線で対称する行政楼はキャンパス中軸線の最前端に置き、キャンパスの中心性建築になっているが、12階建て巨大の体積で、使用人数が多いからですか、それとも別の重要な意義があるのですか。

劉：学生と教師は行政楼の主要使用人ではない、学校の指導者と職員が学校内外の重要事務を処理するまたは決定場所なので管理と学校の発展に導く、学校の権利を代表し、全キャンパスの中心表徴である。行政楼は対称の建築形式を採用で、行政楼の勢いの要求で簡易、堂々と威厳。



筆者撮影：謝と巨大の本部棟



筆者撮影：広大の入口広場

謝：入口の軸線道路の幅は 60 メートル、細かい基礎施設がなく、この中心軸の尺度についてはどう考慮していますか、形式化に行き過ぎますか

劉：伝統文化においては軸線が礼儀とシリアスなので、寛大な軸を建造し、キャンパス厳格な学風をあげ、文明の雰囲気。また私たちはこの都市の初めての大学で、地元政府の要求は学校の雄大、当地の都市イメージのロゴとし、地域経済発展の駆動に役立つ。

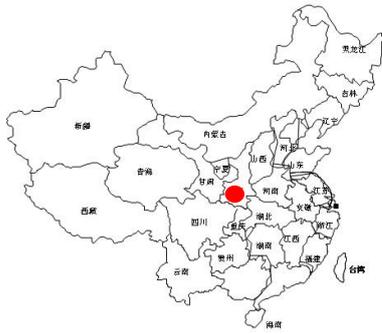
謝：以上の話を聞くと、現在のキャンパス建設と所在地の土地政策、政府の要求、伝統文化の伝承及び経済の発展と関係する。独立の学術教育機構としては、なぜキャンパスの建設は大学の自身の精神と文化をあまり考慮または追求しないですか。

劉：中国の歴史発展から見ると、中国大学は多くの歴史的と現実の問題がある、伝統文化の伝承を考慮しないと行けない、大学は政府や社会との協調する必要があるため、快速発展にいける。もちろん、この関係の作り過程で大学の精神追求と自身価値が弱まっている。中国近現代大学発展史から見ると、中華民国成立前の民主革命時期だけ、中国の大学は自由的に発展していた。現代大学の発展は多元化の開放的方向へ発展しているが、依然として政府と社会の制約から離れない。

3.2 長安大学の渭水キャンパス

3.2.1 キャンパスの背景と配置図を調査：

(1) 地理位置： 陝西省西安市未央区朱宏路北段長安大学渭水校园

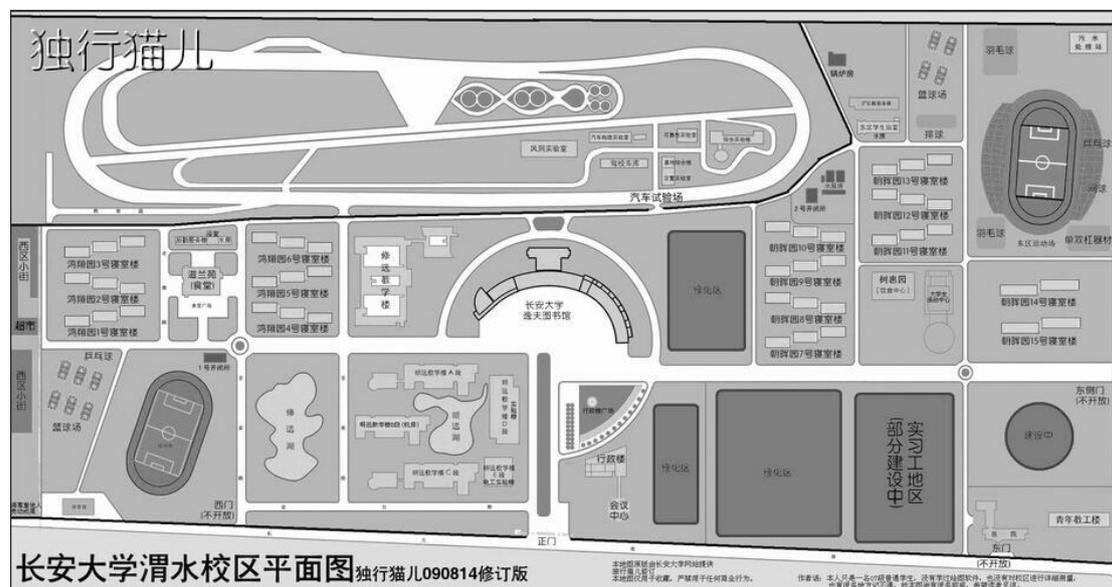


中国の西安



西安の長安大学(渭水新キャンパス)

(2) 長安大学新校舎の配置図



出典： <http://www.xahu.edu.cn/>



筆者撮影：入口軸線の写真



ネットから：東西方向主軸の写真



筆者撮影：本部棟の写真



筆者撮影：図書館前の広場の写真

(3) 長安大学渭水キャンパスの背景：

建造期間：2002年10月—2003年8月第一期工程

2004年5月第二期工程

2007年第三期工程

敷地面積：自動車実験場 280140 平方メートル，校舎面積 831749 平方メートル，総面積 1111889 平方メートル

東西方向の長さ：1600 米，南北方向長さ：695 米

道幅：南北方向主軸 $3+15+30+15+3=66$ （歩道+道幅+緑地+道幅+歩道）

東西方向主軸， $5+6+12+6+5=34$ （歩道+道幅+緑地+道幅+歩道）

副次的な道路， $3+7+3=13$ （歩道+道幅+歩道）

生活エリアの道路， $3+4+3=10$ （歩道+道幅+歩道）

長安大学は国立大学である。全校舎は一次企画の従い、期間ごとに分けて建設するという方針で、新校舎の学生人数は 15000 名である。長安大学新校舎は総合大学である。大学の周辺は都市の近郊地区で、商業と住民が相対的には少なく、都市中心への交通は便利ではない。校舎と都市の関係はしっかり繋がってはいないが、学内では学生の生活、勉強、又は遊びなどといったことを全部解決でき、もしくは施設を設置している。例えば商店街、大型のスーパー、映画館、体育館、自動車学校、病院、ホテルなど。

(4) 中心的構成：図書館、中心点、中心軸、中心核、中心区

校舎の主な入口は南向き、校舎内において東西方向の道路は歩道で学生の使用頻度が多く、集中的な人の流れも多い。南北方向の軸線の主な役は外来客用である。この二つの軸線は“T”字な主軸であり、全校舎のコントロールができる。

校舎前の広場は、外向性と礼儀性の校舎中軸線であり、軸線幅は 66 メートルである。校外に対し校舎の表徴的な建築は左右両側に 200 メートルの教育棟と高さ 50 メートルの本部棟で成立している。主建築としての図書館は半径 160 メートルの半円から建築され、高さ 12 階と 45000 平方メートルの巨大な体積で全校舎の中心建築である。中心建築の前は噴水を中心点としている。中心区としては図書館とその入口広場と方形の交通環形道路及び教学建築群で構成されている。

3.2.3 院長に対するインタビュー取材

霍小平院長への聞き取り

- (1) 時間：2015 年 4 月 26 日午後 2 時から 3 時半まで
- (2) 場所：西安市長安大学建築学院の院長オフィス
- (3) 内容：

謝：私は現代大学新校舎における中心的構成に関わる研究をしている、過去の百年間、中国大学形態の変化と発展はどう思いますか。

霍：中国近現代大学形態のスタートは遅い、発展速度は速い、過程は曲折で、海外の先進技術や思潮を刺激に受けた、国家政策の要求と影響を強く被っていた、歴史のいくつかの運動の中で破壊されたこともある、各種のキャンパスの形態が当時の社会の縮図である。中国近現代の歴史は激動複雑で、キャンパスを表現する形も異なり、それぞれ特色も持っている。

謝：

キャンパス形態の発展と中国の歴史的、社会的の要素と関連し、相対的に開放と安定である現代では、新校舎における建設と発展はどんな状況でしょうか、それにどんな要素と関連しますか

霍：校舎建設は一時停滞した時期があり、それは文化大革命である。90 年代を始め、中国の多く大学は合併し、小規模の校舎から大規模の学校に変わり、分散の校舎区域を主導するた

霍小平

1964 年 2 月生まれ
1995 年 重慶建築大学建築
技術専攻の修士学位取得
1999 年 准教授に昇進
現在建築学院教員を務め
る。
現任国立建築技術委員会
中国照明協会理事
陝西照明学会副会長
西安市都市企画委員会
長安大学都市企画研究院院
長

学術及び研究成果

- 1. 2003 年、西安市の雁塔区と未央区の制御企画、
 - 2. 著作物の出版と教材三部
- 2005 年 5 月出版した
《伝統建築理論と現代校園
設計的融合》
2008 年 12 月出版した 《高
等学校新校区的消防企画》

め、新校舎の建設が始まった。学生の募集を拡大、又は学生の人数が突然に増えたことが原因で、教育と生活を満足させるため大量建設が必要になってきた。新キャンパスの建設においては、当然国家の政策、経済、文化と関係してくる。

謝：新校舎の企画理念の中、なぜ中心区を建設し、主導権を持たせようとしているのか。

霍：用地条件と機能要求この二つの面から考慮した。敷地方正のキャンパスは中心空間の設計を重視し、敷地方形のキャンパスは軸線で秩序を建立する。長安大学新キャンパスは方形なので中心区と軸線で全キャンパスを率いている。

機能の角度から、管理機能の行政管理区と教育機能の情報資源区及び教育区をキャンパスの最核心の機能建築群、この三つの関係は緊密につながっている。便利で集中的に資源を利用するため、交通が最も便利と再重要な位置に中心区を設置する。機能は一部の形式を決定している。

謝：これは海外の大学と違い、海外は学部の違いにより教育資源が分散されている。

霍：キャンパスの管理体制の違いにより、国内の管理体制は学部の独立性が弱い、大学が統一して計画案配する。我々の教育管理体制は学校の管理体制を主としている、全キャンパスの資源は集中的に管理する。例えば図書館は全学科の本を収蔵している。教学棟は専門に分けず、各学科が利用できる。

謝：先ほどは中心設置の原因とおっしゃいましたが、中心区の形態に影響する要因は何ですか。

霍：伝統文化の影響である。西洋のキャンパスは自由と平等を追及するが、中国では伝統文化の“礼”と“和”を追及している。“礼”は等級と秩序で、人と人の社会関係を表現している、親子間、上下間、先生と学生間などなど、建築とキャンパスの分布も同じ、一つの中心区で方かの空間を率いる。軸線は礼儀を表す、対称は中庸を表す。

“和”：中国の伝統文化では和をもって尊きとする、家族メンバが全部一緒に生活するのが好き、例えると四合院の模式である、しかし、一緒に生活するのに混乱を避けるためちゃんとした階級制度が必要である。

こういった文化を受け、大勢の設計士や大学建築教師などに影響を与えている。大体の建築士は伝統文化を重視する、特に大学キャンパスである、文化の伝播に緊密関連あるから

で、キャンパス企画時、建築士たちは中国の伝統文化を捨て、外来文化だけを追及してはいけない。



筆者撮影：図書館前の広場 筆者撮影：謝と巨大の図書館

謝：入口正門の幅は100メートル、入口軸線の幅は66メートル、中心円広場の直径は320メートル主ビルは45000平方メートル、これ一連の巨大な数字は、設計士たちがこの中心区の尺度を設計した時の考えは何ですか、先生と学生の歩き、交流と使用に適切ですか

霍：使用人数と機能から考慮すると、キャンパスの集中管理模式で教育資源の集中化、使われる学生が多いので建築の敷地は大きい。まず機能から、この建築の使用人数が多いため大きい体積の建築が必要となる、人の集散を満足するのに大体積の建築空間が必要となる。視覚と美学の角度から言えば、高大の建築前は広い空間を設けることで視野を満足できる。

使用人数について、現在在校生は15000人、キャンパス周囲の環境が単一であるため、商業区と生活区が少ない、交通も不便で、学生が学校の寄宿舎に住むことを要求する、学生の活動はすべて学内で行う。授業の始まりと終わりのピーク時、図書館へ資料の調べ、食堂へ食事、寄宿舎へ休憩などの活動はすべて図書館の前の広場に通ずるため、この場所の使用率は比較的高い。入口広場と正門は内外とつながりの象徴で、開放的な大学をイメージさせる。だが尺度の大きさは不適切で、我々はこれを反省している。

謝：未来大学キャンパス形態の発展を予測するならば、中心性は存在しますか

霍：伝統文化の角度からは中心性は依然に存在する、教育管理モードは変わるかもしれないが伝統文化は我々の基で、変えるのは難しいと思います。

謝：はい、大変勉強になりました、いろいろ教えていただき、ありがとうございました

第四章 総括

4.1 形態分析について結論：

- 1) 序列的な軸構成から、求心的な中心性へと移り変わった
- 2) 閉鎖的中庭から大衆的広場へと移り変わった
- 3) 単一的な序列表現から多元的開放性へと移り変わった

4.2 インタビューについて結論：

- 4) 中心的構成の意義が確信されていること

研究により以上の結論を得られた。各時代に建設された中国大学のキャンパスは、それぞれの歴史的社会的の影響を強く被っている。キャンパスの「中心的構成」は、その大学がよりどころにする権威のありか、社会的価値、異なる文化の追求、学問の自由の捉え方などを的確に表現している。院長に対するインタビュー取材によっても、分析の妥当性が検証される。

現在、中国では、経済が急ピッチで発展し、政治的にも開放的な気運が高まりつつある。大学の新キャンパスも続々建設中である。未来のキャンパス形態の発展の参考として本論文の成果を提供したい。

参考文献

筆者論文

「The Chronological Change of Central Composition in Chinese University Observed through the Six Typical Examples 1860-present」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 2015年9月

参考論文

- 张涛《当代大学キャンパス中心区の空間環境デザイン研究 Research of the space environment in the center zone of university in contemporary era》、合肥工業大学、2005年4月
- 王宇、《群構——キャンパス中心空間設計の策略研究》、同濟大学、2007年3月
- 于洋、《隠された中心空間を探し Try to Find the Disappearing Center Space》、鄭州大学 2012年5月
- 冯刚、《中国当代におけるキャンパスの計画と設計分析——大学キャンパス企画に討論グループ》、天津大学、2005年6月
- 陈晓恬、《中国の大学におけるキャンパスの形態変化》、同濟大学、2007年
- 刘焕颐、修士論文『中国山西省の明代太原県城における四合院住宅の空間形態分析』
- 何礼平、『中国古代庭園書院の文化意义』、「中国庭園」、2004年08
- 魏春雨・许昊皓・卢健松、『異質同構—岳麓書院から湖南大学まで』、建築学報、2012-02-10
- 龚放、『学堂最為新政大端—張之洞が三江師範学堂の建設から言う』、2002年、第五期
- 汪晓茜、『移植と本土化的二重奏—東吳大学近代建築文化遺産が我々に対する啓示』、東南大学建築学院、2005-10-30
- 李河、『アメリカ大学キャンパス企画変遷研究』、華南理工大学、2004年6月10日
- 董黎、『中国近代教会大学キャンパスの建設理念と企画模式—華西協合大学を例とする』、广州大学 建築と都市企画学院、2006-9
- 李晶晶、『華西協合大学近代建築研究』、華橋大学、2012-5-31
- 王建国、『杨延宝建築論述及び作品集』、中国建築工業出版社 1997年
- 明代蜀王府案内図『成都通史』四川人民出版社
- 沈昉、『明清北京国子監孔廟の空間配置の演变』、建築学報、2010-06-21

- 孙磊磊・姜辉、『大学キャンパス群体』、東南大学出版社、2006-3
- 鑲卫国、「建築師」第34期、中国近代大学キャンパス企画布局试析
- 清華大学校史研究室、清華大学出版者、『清華大学九十年』、2001年
- 史晓川、『青春印象—東南大学九龍湖キャンパス大学生の活動設計』2011年
- 陳占鵬、「中国大学キャンパス企画設計の現代転型」、同済大学建築と都市計画学院、2005年
- 劉少雪、「中国近現代大学と政府の關係の特点」、高等教育研究、2006年3月
- 宋沢方、「戦後日本大学キャンパスの計画と設計」、世界建築、1984年
- 沈濤、「新建大学キャンパスの中心広場設計」、山西建築、2009年
- 王翔、「キャンパス集群形態閱覽」、同済大学、2005年
- 張春単、「大学キャンパス概念性計画のいくつ傾向」、建築と文化、2010年
- 吳正旺、王伯偉、「大学キャンパス計画100年」、建築概論、2004年
- 孟中媛、「百年中国大学の三次転型発展の歴史回顧」、黒龍江高教研究、2008年

謝辞

卒業に近づくにつれ、複雑な感情を抱えています。最初、日本語が話せず私を受け取っていただいた富岡先生と田端先生にたくさんのご迷惑をかけました。本当にお世話になりました、深く感謝しております。先生たちのおかげで、三年間の留学生活は私にとって貴重な経験で、先生たちと研究室のみなさんと出会って、本当に良かったです。

本研究を遂行し修士論文をまとめるに当たり、多くのご支援とご指導を賜りました、指導教官である富岡先生と田端先生に深く感謝しております。時に応じて、厳しくご指導いただいたこと、またやさしく励ましてくださったことを通して、私自身の至らなさを実感することができたことは今後の努力の糧になるものであります。日本語が下手な私に、研究にあった問題やアドバイスなどに何度も説明し、理解できないときは英語で説明していただいたことに誠にありがとうございます。

研究室の皆さんと出会って幸運です。最初、日本に来て苦しかったときは、初めの友達である浅井先輩に、いろいろな面でお世話になったことに感謝します。ポポウイチさんは私のチューターとして、勉強や生活面に関わりいろいろ手伝いをいただきました。高畑さんは熱心と優しい人で温かさを感じております。それから、一緒に努力で勉強した阿達さん、加藤さん、皆己さん、小鮎さん、大堂さん、二宮さん、立松さん、伊藤さん、アーレクスと一緒に過ごした時間は楽しかったです。私が困ったとき、いつも、助けていただきました。皆さんは一生の友達になりました、勉強の面や生活の面も非常に有意義でした。

最後に、これまで自分の思う道を進むことに対し、温かく見守りそして辛抱強く支援してくださった両親と日本で生活を支援した叔父さん、叔母さんに対しては深い感謝の意を表して謝辞を致します。